

WATCH BOOT
light
RPC-M5CS

詳細版

■ 取扱説明書 ■

明京電機株式会社

ご購入ありがとうございます

弊社リポーター[®] WATCH BOOT light RPC-M5CS をご購入いただきありがとうございます。

WATCH BOOT light RPC-M5CS はネットワーク経由でシステム機器の制御/管理

をする遠隔自動電源制御装置です。4 個の 100VAC 電源を個別に遠隔制御/管理できます。

また、NTPサーバーに接続することにより、週間スケジューラーとしてもご利用になれます。

WATCH BOOT light RPC-M5CS が皆様の所有されるネットワークシステムにおいて

有効かつ有用なツールとして機能することを願っております。

この取扱説明書を必ずお読みください。

本書はセットアップ手順と、操作、設置、安全の確保などのための手順が記載されています。

ご使用前に、必ず本書をお読みください。

付属品一覧

本製品には次の付属品が同梱されています。必ずご確認ください。

1. 取扱説明書（保証書）
2. 2P/3P 変換プラグ

当社ホームページ (<http://www.meikyo.co.jp/download/>) に、運用に便利なソフト等がありますのでダウンロードしてご利用ください。

1. 取扱説明書（詳細版） PDF ファイル（本書）
2. RPCサーチソフト
3. ネットワーク稼動監視ソフト
4. プライベートMIB ファイル

安全上のご注意

この取扱説明書での表示では、本装置を安全に正しくお使いいただくために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は以下のようになっています。本文をよくお読みいただき、内容をよくご理解の上、正しくご使用ください。

注意喚起シンボルとシグナル表示の例

 警告	誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
 注意	誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容、及び物的損害*の発生が想定される内容を示しています。

※物的損害とは家屋家財および家畜ペットにかかわる拡大損害を示します。

図記号の例

 分解・改造禁止	⊙は、禁止（してはいけないこと）を示します。具体的な禁止内容は ⊙の中や近くに絵や文章で示します。左図の場合は「分解・改造の禁止」を示します。
 電源プラグを抜く	●は、強制（必ずすること）を示します。具体的な強制内容は、●の中や近くに絵や文章で示します。左図の場合は「差し込みプラグをコンセントから抜くこと」を示します。

警告

●万一異常が発生したら、電源プラグをすぐに抜く！

煙、変な音、においがするなど、異常状態のまま使用しないでください。火災や感電の原因となります。このようなときは、すぐに電源プラグを抜いてお買い上げの販売店や弊社にお問い合わせください。



電源プラグを抜く

●AC100V（50または60Hz）以外の電源電圧では使用しない

表示された電源電圧（交流100V）以外の電圧で使用しないでください。特に110Vを越える電圧では製品を破壊するおそれがあり、火災の原因となりますので、絶対に接続しないでください。



交流100V

●本装置の電源アースあるいはFG端子を接地する

本装置の電源プラグのアースあるいはFG端子を接地してください。感電や故障の原因となります。



アース接地

●本装置後面のACコンセントは15Aまで

本装置後面のACコンセントは、供給できる容量の合計は最大で15Aです。合計15Aを越えて使用しないでください。火災や故障の原因となります。



最大容量15Aまで

●たこ足配線をしない

本装置の電源は、家庭用電源コンセントから直接取ってください。本装置のACコンセントに、電源用テーブルタップなどを接続して使用しないでください。火災や故障の原因となります。



たこ足配線禁止

●電源コードを大切に

コードに重いものを載せたり、熱器具に近づけたりしないでください。コードが損傷し火災や感電、故障の原因となります。また、コードを加工したり無理に曲げたり引っ張ったりすることも、火災や感電の原因となるのでおやめください。コードが傷んだ場合はお買い上げの販売店、または弊社までご相談ください。



コードを乱暴に扱わない

●極めて高い信頼性や安全性が必要とされる機器に接続しない

本装置はパソコン及びパソコン周辺機器と接続する用途に設計されています。人命に直接関わる医療機器などの極めて高い信頼性または安全性が必要とされる機器には接続しないでください。



パソコン機器専用

●ぬれた手で本装置や電源プラグにさわらない

ぬれた手で本装置の操作を行なわないでください。ぬれた手で電源プラグを抜いたり、差し込んだりしないでください。感電の原因となることがあります



ぬれた手でさわらない

●本装置の上や近くに水などの液体を置かない

本装置に水などの液体が入った場合、火災、感電、故障などの原因になります。



液体を近くに置かない

●異物を入れない

製品に、金属類や燃えやすいものが入ると、火災や感電の原因となります。万一異物が入った場合はすぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて、お買い上げの販売店、または弊社までご相談ください。



内部に異物を入れない

●ヘアースプレーなどの可燃物を本装置の上や近くに置いたり、使用したりしない
スイッチの火花などで引火して火災の原因になることがあります。



可燃物禁止

●雷が鳴り出したら製品や電源プラグに触れない

感電の原因となります。本装置には、落雷用保護回路がありますが、FG端子を接地して、アースされた状態でないと十分な効果を発揮しませんのでご注意ください。



雷のときは、触れない

●分解したり改造したりしない

内部には電圧の高い部分がありますので、カバーをはずして内部の部品に触ったり、製品を改造したりしないでください。火災や感電、故障の原因となります。



分解・改造禁止

●製品を落したりして破損した場合は

そのまま使用すると火災や感電、故障の原因となります。電源プラグをコンセントから抜き、前面のコネクタをすべて抜いて、お買い上げの販売店、または弊社までお問い合わせください。



電源プラグを抜く

●火災・感電・事故・傷害の発生する危険がある機器は、遠隔制御機能を利用しない
遠隔制御機能を利用する場合は、遠隔操作により火災・感電・事故・傷害の発生する危険がある機器は接続しないでください。特に、電気ストーブや電熱器など熱を発生するものは、火災の原因となりますので絶対に接続しないでください。また、接続される機器の安全性に関しては、接続される機器のUSB等のアウトレットにも遠隔操作によって危険がないことを確認して下さい。
本機に接続される機器は、必ず、本機の近傍にあり、本機の近傍にいる人が危険を感じた場合、機器の電源プラグを容易に外せるようにしてください。



遠隔制御禁止

注意

●電源プラグを抜くときは電源コードを引っ張らない

電源プラグを抜くときは必ずプラグを持って抜いてください。
コードを引っ張って抜くと傷がつき、火災や感電の原因となることがあります。



コードを引っ張らない

●風通しの悪いところに置かない

製品を密閉された場所に置かないでください。熱がこもり、やけどや火災、故障の原因となることがあります。



風通しの悪い場所禁止

●温度が高くなるところに置かない

直射日光の当たるところや熱器具の近くなど、高温になるところに置かないでください。やけどや火災、故障の原因となることがあります。



温度が高い場所禁止

●お手入れのときは

本装置の本体が汚れた場合は、柔らかい布に水または中性洗剤を含ませ、よく絞ってから軽く拭いてください（絶対に、電源プラグやコネクタなどの接続部をこの方法で拭かないでください）。薬品類（ベンジン・シンナーなど）は使わないでください。変質・変色する場合があります。本体に接続されている電源プラグやコネクタなどの接続部のお手入れは、電源プラグやコネクタを抜いて、機器を傷つけないよう軽く乾拭きしてください。いずれの場合も、必ず本装置の電源プラグをコンセントから抜き、本装置に接続されている電源プラグやコネクタ類も全て抜いてから行ってください。感電や故障の原因となることがあります。



電源プラグ
を抜く

●湿気やほこりの多いところに置かない

湿気やほこりの多い場所や調理台、加湿器の近くなど、油煙や湯気があたるような場所に置かないでください。火災や感電の原因となることがあります。



湿気・ほこり禁止

●逆さまに設置しない

本装置を逆さまに設置しないでください。また、布等でくるんだ状態での使用もおやめください。特に、ビニールやゴム製品が接触している状態での使用はおやめください。火災や故障の原因となることがあります。



逆さま禁止

●電源プラグとコンセントの定期点検を

電源プラグとコンセントは長時間つないだまましていると、ほこりやちりがたまり、そのままの状態で使用を続けると、火災や感電の原因となることがあります。定期的な清掃をし、接触不良などを点検してください。



定期点検

●本装置は日本国内のみで使用

国外での使用は、電源電圧などの問題により、本装置が故障することがあります。



国内のみ使用

●不安定な場所やお子様の手が届く所には置かない

ぐらついた台や本装置より面積が小さいものの上や傾いた所、また衝撃や振動の加わる所など、不安定な場所やお子様の手が届く所に置かないでください。落ちたり倒れたりしてけがや故障の原因となります。



不安定な場所禁止

●ラジオやテレビなどのすぐ近くに置かない

ラジオやテレビなどのすぐ近くに置きますと受信障害を与えることがあります。



ラジオ、テレビの近く禁止

●データの保存について

データの通信を行なう際には、あらかじめデータのバックアップを取るなどの処置を行なってください。回線や本装置の障害によりデータを消失するおそれがあります。



バックアップ

●花瓶やコップ、植木鉢、小さな金属物などを本装置の上に置かない

内部に水や異物が入ると、火災や感電の原因となります。万一、水などが内部に入ったときは、すぐに電源プラグをコンセントから抜いてください。



上にものを置かない

●踏み台にしない

本装置の上に乗らないでください。
倒れたりしてけがや故障の原因となることがあります。



踏み台禁止

目次

第 1 章	はじめに	11
	1 機能概要	12
	2 各部の名称と機能	13
	3 D I Pスイッチの設定	14
	4 LED 表示について	15
第 2 章	設置・取り付け	16
	1 設置・取り付け	17
	2 ラックへの取り付け	17
	3 固定方法	17
第 3 章	初期設定	18
	1 初期設定	19
	使用条件の確認と同意	19
	2 初期化の方法	22
第 4 章	Webブラウザでの設定、制御	23
	1 ログイン	23
	I Pアドレスを固定にして利用する場合	24
	R P Cサーチソフトを利用する場合	26
	2 設定項目	27
	基本設定	27
	基本設定	27
	総合管理設定	28
	機器設定	28
	WakeOnLAN 設定	30
	温度センサー設定	31
	詳細設定	32
	外部接続設定	32
	シャットダウンスクリプト設定	32
	仮想アウトレット設定	34
	COM ポート設定	34
	セキュリティ設定	35
	ユーザーアカウント設定	35
	セキュリティ詳細設定	37
	通信設定	39
	通信基本設定	39
	通信詳細設定	42
	SNMP 基本設定	43
	ユーザーHTML 設定	45
	メール設定	47
	監視設定	51
	P I N G監視	51
	メールサーバー監視	55

	ハートビート	56
	温度監視	58
	スケジュール設定	60
	システム情報	62
	ファームウェア更新	63
	PING送信	64
	簡易説明	65
	3 状態表示項目		66
	簡易情報表示	67
	監視状態表示	69
	イベントログ表示	70
	4 電源制御		
	電源制御	70
	仮想アウトレット制御	71
	一斉電源制御	72
	5 CPUリセット	73
第5章	その他の設定	74
	1 TELNETによる設定	75
	2 ターミナルソフトによる設定	78
第6章	その他の制御	79
	1 TELNET接続による制御	80
	2 シリアルからの制御	84
	3 モデムからの制御	85
	4 メールからの制御	86
	5 WEBコマンドからの制御	87
第7章	ロギング機能	88
	1 ロギング機能の設定・表示	89
	ログ制御変数のビット構成		
	ログ表示コマンド	90
	ログの表示形式		
	記録ログ一覧表	91
第8章	シャットダウンスクリプト	92
	1 スクリプト仕様について	93
	スクリプトの基本動作		
	設定		
	ログ		
	エラー処理	94
	テキスト仕様		
	PING確認について	95
第9章	SNMPについて	96
	1 SNMPについて	97
	2 機器設定		
	3 MIBについて	99

第10章	ネットワーク稼動監視	100
	1 機器設定	101
	2 RPC-EYE v3の利用	102
第11章	仕様一覧	103
	変数一覧表	104
	ログ一覧表	112
	制御コマンド一覧表	113
	仕様一覧表	115
	問い合わせ先 ご注意	116

第 1 章
はじめに

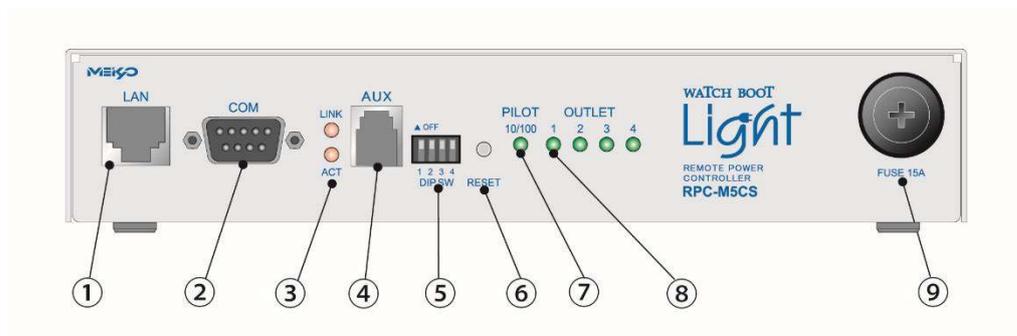
1. 機能概要

本装置には以下の機能があります。

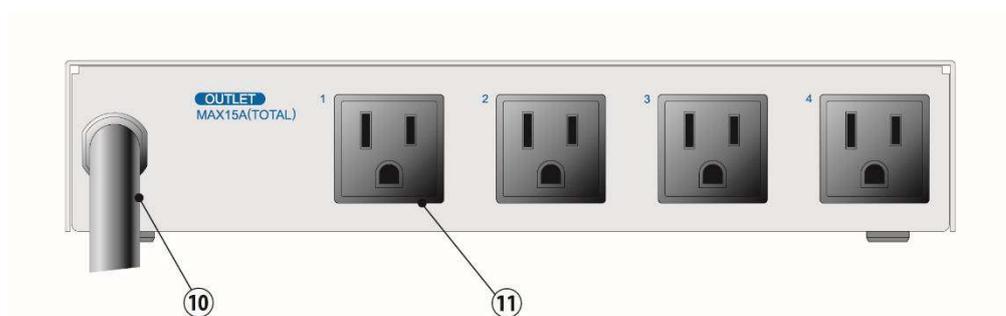
- 1) 4 個の 100V A C 電源を個別に制御/管理
- 2) 通信による電源制御
 - WEB からの電源制御と設定
 - TELNET からの電源制御と設定
- 3) シリアルからの電源制御と設定
- 4) スケジュールによる制御
 - 週間スケジュールによる電源制御
- 5) 監視機能
 - 電源状態の監視
 - I C M P による死活監視 (P I N G 監視)
 - ハートビートによる監視
 - 温度状態の監視
(要オプション：RP-TS003)
- 6) 各デバイスへの遅延電源投入
 - 本体電源投入時に、指定した順番、タイミングによる各デバイスの起動
- 7) メールによる制御や通知
- 8) センター通知機能
 - 電源状態と死活監視状態をセンターへ通知
 - (MSRP) RPC -EYE v3対応
- 9) SNMP エージェント機能
- 10) 通信による遠隔バージョンアップ
- 11) 通信中継機能 (TELNET 通信)
 - TELNET クライアント、シリアルコンソールとして通信
- 12) マジックパケットによる起動とスクリプトによるシャットダウン
- 13) スクリプト通信による OS のシャットダウン

2. 各部の名称と機能

フロントパネル



リヤパネル



① LAN	LANケーブル（8ピンRJ45）を接続します。
② COM	モデム・シリアル接続用通信ポートとして使用します。
③ LED（LINK、ACT）	通信状態を表示します。
④ AUX	温度センサーを接続します。
⑤ DIP スイッチ	運用や初期化など各種モードの切替に使用します。
⑥ RESET スイッチ	出力電源へ影響を与えずに CPU を初期化します。
⑦ PILOT LED	本体に電源が投入されている場合に点灯します。
⑧ OUTLET LED	AC アウトレットの電源出力状態を表示します。
⑨ FUSE	ガラス管ヒューズ 15A を使用します。
⑩ 電源コード	商用電源、UPS などに接続します。
⑪ AC アウトレット	デバイスの電源コードを接続します。

3. DIPスイッチの設定

DIPスイッチの機能 (OFFは「上」、ONは「下」を意味します。)

NO.	状態	モード
1	OFF	運転モード
	ON	中継機能専用モード、初期化
2	OFF	運転モード
	ON	中継機能専用モード
3	OFF	運転モード
	ON	メンテナンスモード、初期化
4	OFF	OFFに固定
	ON	未使用

DIPスイッチの設定

		1	2	3	4
通常運転時	OFF	■	■	■	■
	ON				
初期設定時	OFF	■	■		■
	ON			■	
初期化時	OFF		■		■
	ON	■		■	
中継機能優先モード	OFF			■	■
	ON	■	■		

* 中継機能優先モードでは、シリアルからのコマンドを受け付けなくなります。

注意

DIPスイッチを操作するときは、本体のACアウトレットから全デバイスを取り外してください。

DIPスイッチ操作また設定終了後は、必ず、本体前面のRESETスイッチを押してください。誤動作する恐れがあります。

初期設定は、「第3章 初期設定」の「初期化の方法」を参照にして設定してください。

4. LED 表示について

本体には3種類のLEDが装備されています。

1) LINK、ACT LED

CPUの通信状態を表示します。

LED	用途	状態	表示
LINK	CPU 状態	ケーブル抜け LAN 正常リンク	0.25 秒点灯、0.25 秒消灯 1 秒点灯、 1 秒消灯
ACT	通信状態	パケット受信時 パケット未受信時	点灯 消灯

2) PILOT LED

本体に電源投入されている場合、オレンジが点灯します。

本体に電源投入され、100BASE-TX リンク時にはグリーンが点灯します。

全アウトレットの死活監視リポート回数の合計が設定値を越えたら赤が点灯します。

(初期値は 12 回)

メール受信サーバーへのアクセスエラー時は、2 秒点灯→0.25 秒消灯→2 秒点灯します。

3) OUTLET LED

① ACアウトレットの電源出力状態を表示します。

ON の場合 : 点灯

OFFの場合 : 消灯

② OFF 遅延中、1 秒点滅

③ 死活監視

1. 死活監視の動作が「リポート」または「ログのみ」の場合

(ア) 死活監視異常中 (出力 ON) は、2 秒点灯→0.25 秒消灯→2 秒点灯

(イ) 死活監視スタート後、全ての PING 監視対象から応答を確認するまでの間、1 秒点灯→0.25 秒消灯を繰り返す、その後点灯します。(出力は ON)

2. 死活監視の動作が「ON」の場合

(ア) 死活監視異常中 (出力 ON) は、2 秒点灯→0.25 秒消灯→2 秒点灯

(イ) 死活監視スタート後、全ての PING 監視対象から応答を確認するまでの間、1 秒消灯→0.25 秒点灯を繰り返す、その後消灯します。(出力は OFF)

3. 死活監視の動作が「OFF」の場合

(ア) 死活監視スタート後、全ての PING 監視対象から応答を確認するまでの間、1 秒点灯→0.25 秒消灯を繰り返す、その後点灯します。(出力は ON)

「ON」「OFF」の設定はブラウザからは行えません。

変数 [debOIWdogAction] を直接変更する必要があります。

第2章 設置・取り付け

1. 設置・取り付け

以下の手順で設置します。

- 1) 本体を設置場所に置きます。設置場所は、単相 100V AC / 15A以上のコンセントに直接差し込める場所で本体背面に電源プラグが差し込める位置であることを確認します。
- 2) 本体前面のLAN用コネクタにLANケーブルを接続します。
- 3) 本体の電源コードをコンセントに接続します。

注意 本装置を逆さまに設置しないでください。火災や故障の原因となることがあります。

2. ラックへの取り付け

以下の手順でラックに取り付けます。

- 1) ラック・キャビネットにプレートを取り付けます。
プレートはラックサイズに合った一般市販品をご用意ください。
- 2) ラック・キャビネットに本装置を設置します。
- 3) 本体前面LAN用コネクタにLANケーブルを接続します。
- 4) 電源コードをコンセントに接続します。

3. 固定方法

本装置固定のため設置用の穴があります。

底面についている設置用の穴（4箇所）を利用して機器を固定します。
取り付け用のねじは、M 3×8 L (MAX) をご利用ください。

注意 壁面に取り付ける場合は、オプションの取付金具 ATTO2 が便利です。
オプション：取付金具 (ATTO2) 標準価格 3,000 円 (税抜)

第 3 章 初期設定

1. 初期設定

使用条件の確認と同意

本製品の使用にあたっては、初めに使用条件に同意していただく必要があります。

外部のネットワークから接続するために固定の IP アドレスを設定します。

設定用 PC と本装置とは、LAN 用コネクタに LAN ケーブルで接続します。
(PC と直接接続する場合は、クロス LAN ケーブルになります)

- 1) LAN や VPN 上に 192.168.10.1 および 2 の IP アドレスを持つホストがないことを確認します。
- 2) 設定用 PC の IP アドレスとサブネットマスクを以下の通り設定します。
IP アドレス : 192.168.10.2
サブネットマスク : 255.255.255.0
- 3) 本体前面の DIP スイッチ 3 を ON にします。
(メンテナンスモードになり、IP アドレスが 192.168.10.1 となります。)
- 4) 本体前面の RESET スイッチを押します。
- 5) 設定用 PC の Web ブラウザを起動します。
http://192.168.10.1 を指定し、本装置にアクセスします。

注意 ブラウザは JavaScript とフレームに対応している必要があります。

- 6) ブラウザ依存のポップアップ画面が表示されます。ユーザー名 (デフォルト : admin) とパスワード (デフォルト : magic) を入力します。



- 7) 「ご確認のお願い」の画面が表示されます。内容を確認の上「上記の内容に同意します。」をチェックし「次へ」をクリックします。

ご確認のお願い

以下の文面をお読みになり、同意される場合のみ、遠隔制御機能を有効化できます。

RPC-M5CS

電気用品安全法により、遠隔操作に伴い感電・事故・傷害の発生する危険がある機器の遠隔操作は禁じられています。したがって、電気用品の中には、遠隔制御により感電、火災及び障害の生じる可能性があるものがありますので、そのような機器を、本装置のアウトレットに接続してはなりません。

特に、電気ストーブや電熱器など熱を発生するものは、火災の原因となりますので絶対に接続しないでください。

また、通信回線の故障などにより遠隔制御が行えなくなった場合でも、安全状態が維持されるように、連続運転可能な装置のみを接続してください。

上記の内容に同意します。

- 8) Management menu画面が表示されます。

Management menu

モデル名	RPC-M5CS
バージョン	0.10A.161221
MACアドレス	00:09:EE:01:40:8E
IPアドレス	<input type="text" value="192.168.10.1"/>
サブネットマスク	<input type="text" value="255.255.255.0"/>
デフォルトゲートウェイ	<input type="text"/>
DNSサーバーアドレス	<input type="text"/>
DHCP機能	<input type="radio"/> 有効 <input checked="" type="radio"/> 無効
HTTP機能	<input checked="" type="radio"/> 有効 <input type="radio"/> 無効
HTTPポート	<input type="text" value="80"/>
TELNET機能	<input type="radio"/> 有効 <input checked="" type="radio"/> 無効
TELNETポート	<input type="text" value="23"/>
リンク速度とDuplex	<input type="text" value="自動検知"/>
IPフィルタ機能	<input type="radio"/> 有効 <input checked="" type="radio"/> 無効

- 9) IPアドレス欄にご利用になるLANに適切なIPアドレスを入力します。
運用時にIPアドレスを固定して利用する場合、「DHCP機能」を無効にチェックしたままで、IPアドレス欄にご利用になるLANに適切なIPアドレスを入力します。
DHCPを利用して動的にIPアドレスを割り当てる場合は、「DHCP機能」を有効にチェックして「適用」をクリックします。
- 10) 設定が終了したら「適用」をクリックします。
- 11) その他、「TELNET機能」など必要に応じて設定を行います。設定が終了したら、「適用」をクリックします。
- 12) 本体前面のDIPスイッチ3をOFFにします。(運用モードにします。)

- 13) 本体前面の RESET スイッチを押します。
- 14) Web ブラウザを閉じます。
- 15) 設定用 PC の IP アドレスを元に戻します。

注意	設定後は、必ず「適用」をクリックし、「RESET スイッチ」を押してください。「RESET スイッチ」を押さないと設定が反映されません。
-----------	--

2. 初期化の方法

本装置を初期化して出荷状態に戻します。

(まだ電源コードをコンセントに接続しないでください。)

- 1) 本体前面のDIPスイッチ1と3のみON(下)にします。
- 2) 電源コードをコンセントに接続し、電源を供給します。
- 3) 本体前面のLINK LEDが5秒間点灯します。
点灯中に本体前面のRESETスイッチを1秒程度、押します。
- 4) 初期化が成功するとLINK LEDとACT LEDが点灯します。
- 5) RESETスイッチを押す前にLINK LEDが消灯してしまった場合は一旦電源コードを抜き電源を供給からやり直してください。
- 6) 初期化後は、DIPスイッチ3のみON(下)にし、再度電源を供給してからご使用ください。
- 7) 初期化後は再度、使用条件の確認と同意が必要になりますので、「第3章 初期設定」から実行してください。

注意 初期化中は本体の電源を切らないで下さい。

第 4 章

Webブラウザ での設定、制御

1. ログイン

1-1 IPアドレスを固定にして利用する場合

インターネットでアクセスする場合は、通信機器の設定が必要です。通信機器の設定などは通信機器のマニュアルに従ってください。

(PROXY 経由ではご利用になれません)

注意 ブラウザは JavaScript とフレームに対応している必要があります。半角記号”?”,”=”,”%”,”&”,”(カンマ)”,”(ダブルクォーテーション)は入力しないで下さい。

- 1) Webブラウザを起動し、本装置に設定されたIPアドレスを指定してアクセスします。

(例 IPアドレス : 192.168.10.1)

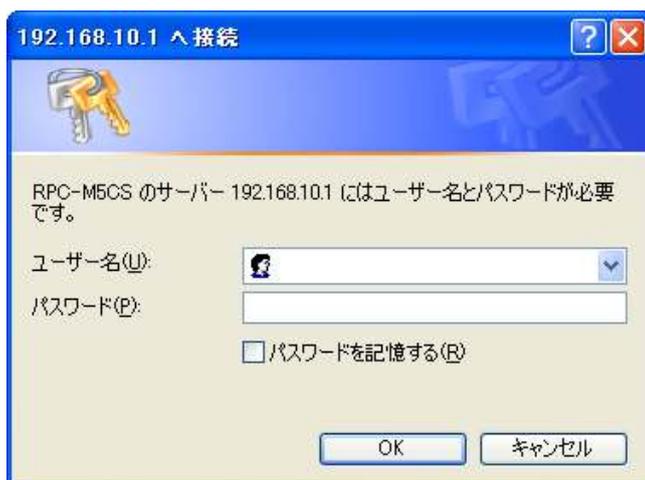
HTTPポート番号「80」デフォルトの場合

http://192.168.10.1

HTTPポート番号「500」に設定した場合

http://192.168.10.1:500

- 2) ブラウザ依存のユーザー名/パスワード入力用のポップアップ画面が表示されます。



3) ユーザーIDとパスワードを入力し、「OK」ボタンをクリックします。

ユーザーID : admin (デフォルト)
パスワード : magic (デフォルト)

4) 簡易情報表示画面が表示されます。

簡易情報表示画面

No.	アウトレット名称	監視	電源
1	Outlet1		ON
2	Outlet2		ON
3	Outlet3		ON
4	Outlet4		ON

機器情報

機器名称 Noname

注意

簡易情報表示は現在の本装置の状態を表示する画面で実際に制御することは出来ません。

電源制御可能な他のユーザーがログイン中の場合、当該方法にて新たにログインすることはできません。

ただし、Ident, Supervisor 権限ではログインすることが可能です。

(ユーザーアカウントの設定については、「第4章 Web ブラウザでの設定、制御」の「セキュリティ設定」をご確認ください。)

1-2 RPCサーチソフトを利用する場合

当社ホームページ（<http://www.meikyo.co.jp/download/>）よりRPCサーチソフトをダウンロードし、ご利用して頂ければDHCP機能を利用した本装置を検索し接続することができます。

設定用PCと本装置とは、DHCPサーバーの存在するLANに接続します。

- 1) RPCサーチソフトを起動し、「検索」ボタンをクリックします。

RPCサーチソフト機器検索画面



- 2) 機器一覧にある本装置を選択し、「WEB接続」ボタンをクリックする。
または「TELNET接続」ボタンをクリックし、本装置に設定されたユーザー名とパスワードを入力してアクセスします。
- 3) ユーザー名(デフォルト:admin)とパスワード(デフォルト:magic)を入力します。

注意：「WEB接続」の場合はブラウザ依存のユーザー名/パスワード入力用のポップアップ画面が表示されます。

- 4) 簡易情報表示画面が表示されます。

注意 LINK/ACT/PILOT LED が、いつまでも交互に点滅している時は、DHCPによるアドレス取得ができない状態です。DHCPサーバーを確認するか、IPアドレスを固定にしてご利用ください。

2. 設定項目

2-1 基本設定

2-1-1 基本設定

- 1) 画面左側設定項目の「基本設定」をクリックします。
基本設定画面が表示されます。

基本設定画面

基本設定

基本設定 詳細設定 セキュリティ設定

総合管理設定

PCによる時刻設定 時刻設定

※特殊記号は利用できません。

機器設定

機器名称: No name
設置場所: Nowhere

No.	アウトレット名称	OFF遅延	再投入	ON遅延	起動時	連動
1	Outlet1	0	10	1	1	-
2	Outlet2	0	10	2	2	-
3	Outlet3	0	10	3	3	-
4	Outlet4	0	10	4	4	-

全アウトレット再投入: 10 (単位: 秒)

※ OFF遅延を「-1」にするとOFF操作を使用不可にします。
※ ON遅延を「-1」にすると自動で電源出力を開始しません。

LEDによる状態表示機能 無効 有効

Wake On LAN設定

	MACアドレス
アウトレット1	
アウトレット2	
アウトレット3	
アウトレット4	
パケット送信回数	2
パケット送信間隔(秒)	15

[送信テスト画面へ](#)

※対象アウトレットがOFFからON動作時に送信されます。
※MACアドレスの形式: 00:00:00:00:00:00

温度センサー設定

温度センサー 無効 有効

適用 リセット

2-1-1-1 総合管理設定

1) 総合管理設定の「時刻設定」をクリックします。時刻設定画面が表示されます。

時刻設定画面



PCの時刻による設定

「適用」をクリックすると接続されたPCの時刻に設定されます。

2-1-1-2 機器設定

機器に関する設定をします。

機器名称： 機器名称を設定します。(全角9文字、半角19文字以内)

設置場所： 設置場所を設定します。(全角31文字、半角63文字以内)

① アウトレット名称： 個別アウトレットの名称を設定します。
(全角10文字、半角20文字以内)

② OFF 遅延

個別アウトレットの電源出力を停止する際の OFF 遅延時間を設定します。シャットダウンスクリプトを利用する場合は、スクリプトが動作してシャットダウンが終了するまでに必要とされる十分な時間を設定してください。「-1」設定は、電源 OFF 操作を禁止にし、リブート操作のみ有効とします。ルーターやハブなど誤操作による電源 OFF を避けたい場合に便利です。(電源切断により、ネットワークへアクセスできなくなるケースを回避します。)

遅延時間は以下の操作を行う際に適用されます。

- ・個別アウトレット制御の OFF 操作
- ・全アウトレット制御の OFF 操作

デフォルト : 0

設定可能値 : -1 ~ 3600 (秒)

「 -1 」 : アウトレット制御の OFF 操作を使用不可にします。リブート操作のみ可能です。

「 0 」 : 即座に電源出力を停止します。

「 1~3600 」 : 指定した時間遅延させた後、電源出力を停止します。

③ 再投入

個別アウトレットの電源出力を停止してから開始するまでの時間を設定します。この設定により、接続された任意のデバイスに最適なリブート時間を確保できます。

再投入時間は以下の操作を行う際に適用されます。

- 個別アウトレット制御のリブート操作
デフォルト : 10
設定可能値 : 8 ~ 3600 (秒)

④ ON 遅延

個別アウトレットの電源出力を開始するまでの時間を設定します。この設定により、指定した順番に、指定したタイミングで個別アウトレットの電源出力を開始させることができます。

遅延時間は以下の操作を行う際に適用されます。

- 全アウトレット制御のON操作
- 全アウトレット制御のリブート操作

デフォルト : No.1-1 No.2-2 No.3-3 No.4-4
設定可能値 : -1 ~ 3600 (秒)

「 -1 」 : 自動で電源出力を開始しません。

「 0 」 : 即座に電源出力を開始します。

「 1~3600 」 : 指定した時間遅延させた後、電源出力を開始します。

⑤ 起動時

起動時の電源出力を開始するまでの時間を設定します。

設定方法は ④ON 遅延 と同様です。

⑥ 連動

指定したアウトレットの動作に連動します。

⑦ 全アウトレット再投入時間

全アウトレットの電源出力を停止してから電源出力を開始するまでの時間を設定します。

再投入時間は以下の操作を行う際に適用されます。

注) 個別アウトレットの再投入時間は反映されません。

- 全アウトレット制御のリブート操作
デフォルト : 10
設定可能値 : 8~3600 (秒)

⑧ LEDによる状態表示機能 デフォルト : 有効

有効 : 各LEDの状態表示が動作します。

無効 : P I L O T、O U T L E T LEDの点滅動作はなくなり、点灯または消灯となります。

2-1-1-3 WakeOnLAN 設定

WakeOnLAN に関する設定をします。

アウトレット 1~4 デフォルト : 00:00:00:00:00:00
MAC アドレス

パケット送信回数(回) デフォルト : 2

パケット送信間隔(秒) デフォルト : 15

- * パケット送信回数は仮想アウトレットと共用です。
- * パケット送信間隔は仮想アウトレットと共用です。
- * アウトレットが ON した時、マジックパケットを送出します。

1) 設定が終了しましたら「適用」をクリックします。

2) 「送信テスト画面へ」をクリックし、送信テスト画面を表示させ WakeOnLAN 送信テストの各アウトレットの「送信」をクリックすると設定されている「MAC アドレス」へマジックパケットを送信します。

WakeOnLAN 機能について

WakeOnLAN 対応の機器を電源出力開始と同時にマジックパケットを送信し、ブートアップさせることができます。

送信テスト画面

送信テスト

Wake On LAN 送信テスト

アウトレット1		送信
アウトレット2		送信
アウトレット3		送信
アウトレット4		送信

メール送信テスト

テストメール送信 送信

[エラーメッセージ確認]

2-1-1-4 温度センサー設定

温度センサーに関する設定をします。

温度センサー : 有効 無効

注意 「適用」ボタンをクリックしないと設定した内容が有効になりません。設定によっては、「CPU リセット」ボタンをクリックしないと設定した内容が有効になりません。

2-1-2 詳細設定

本装置のシャットダウンスクリプト、仮想アウトレット、COM.1 ポートに関する設定をします。

基本設定項目の「詳細設定」をクリックします。詳細設定画面が表示されます。

詳細設定画面

詳細設定

基本設定 **詳細設定** セキュリティ設定

外部接続設定

シャットダウン スクリプト設定

※特殊記号は利用できません。

仮想アウトレット設定 [Wake On LAN]

No.	仮想アウトレット名称	MACアドレス	ON遅延
1			0 秒
2			0 秒
3			0 秒
4			0 秒
5			0 秒
6			0 秒
7			0 秒
8			0 秒

※MACアドレスの形式 00:00:00:00:00:00

バケット送信回数 2 回

バケット送信間隔 15 秒

COMポート設定

COM1 通信速度 38400bps

COM1 キャラクター長 8 bits

COM1 ストップビット 1 bit

COM1 パリティ none

適用 リセット

2-1-2-1 外部接続設定

本装置にシャットダウンスクリプトに関する設定をします。

- 1) 「スクリプト設定」をクリックします。スクリプト設定画面が表示されます。

スクリプト設定画面

① スクリプト設定 (アウトレット*)

- | | |
|---------|-------------------------------|
| スクリプト実行 | : 無効、有効 |
| スクリプト番号 | : 1 (デフォルト
Windows用設定が登録済) |
| IPアドレス | : IPアドレスを設定します。 |
| Port番号 | : 0 (デフォルト) |
| ログインID | : 半角16文字以内 |
| パスワード | : 半角16文字以内 |
| PING実行先 | : |
| PING間隔 | : 0 (デフォルト) |
| PING回数 | : 0 (デフォルト) |
| PING限度 | : 0 (デフォルト) |
| メッセージ | : |

- 2) シャットダウンスクリプトを設定するアウトレット No を選択し、「スクリプト登録」をクリックします。スクリプト設定画面が表示されます。

スクリプト設定画面



スクリプトファイル指定項目に、スクリプトファイルを選択します。

スクリプトエラー時の終了コードによる電源 OFF

終了コードがこの値を超えていたら、電源を OFF しません。

「0」なら、終了コードが0のときだけ OFF にします。

「255」なら、どんなときにも OFF にします。

詳細は「第8章シャットダウンスクリプト」をご参照ください。

2-1-2-2 仮想アウトレット設定

仮想アウトレットに関する設定をします。

仮想アウトレット名称 : 仮想アウトレット名称を設定します。
全角10文字、半角20文字以内

MACアドレス デフォルト : 00:00:00:00:00:00

ON遅延 (秒) デフォルト : 0

設定方法は

「第2章 機器設定」の

④ ON遅延と同様です。

パケット送信回数 (回) デフォルト : 2

パケット送信間隔 (秒) デフォルト : 15

仮想アウトレットについて

仮想アウトレットとは、実際には存在しないアウトレットであり、関連付けされた MAC アドレスへマジックパケットを送出して、WakeOnLAN 機能を実現させるためのものです。

2-1-2-3 COMポート設定

COMポートに関する設定をします。

COM1 通信速度 デフォルト : 38400bps

COM1 キャラクター長 デフォルト : 8bits

COM1 ストップビット デフォルト : 1bit

COM1 パリティ デフォルト : none

設定が終了しましたら「適用」をクリックします。

注意 「適用」ボタンをクリックしないと設定した内容が有効になりません。

2-1-3 セキュリティ設定

本装置にセキュリティに関する設定をします。

2-1-3-1 ユーザーアカウント設定

(WEBからのログイン時に有効)

- 1) 「ユーザーアカウント設定」をクリックします。
ユーザーアカウント設定画面が表示されます。

ユーザーアカウント設定画面

セキュリティ設定

ユーザーアカウント設定セキュリティ詳細設定基本設定に戻る

※ 入力項目は半角英数のみ有効

Ident (システム情報の参照のみ)

HTTP 接続用

No.	ユーザーID	パスワード	No.	ユーザーID	パスワード
1	<input type="text"/>	<input type="password"/>	6	<input type="text"/>	<input type="password"/>
2	<input type="text"/>	<input type="password"/>	7	<input type="text"/>	<input type="password"/>
3	<input type="text"/>	<input type="password"/>	8	<input type="text"/>	<input type="password"/>
4	<input type="text"/>	<input type="password"/>	9	<input type="text"/>	<input type="password"/>
5	<input type="text"/>	<input type="password"/>	10	<input type="text"/>	<input type="password"/>

Control (システム情報参照と電源の制御のみ)

HTTP 接続用

No.	ユーザーID	パスワード	No.	ユーザーID	パスワード
1	<input type="text"/>	<input type="password"/>	6	<input type="text"/>	<input type="password"/>
2	<input type="text"/>	<input type="password"/>	7	<input type="text"/>	<input type="password"/>
3	<input type="text"/>	<input type="password"/>	8	<input type="text"/>	<input type="password"/>
4	<input type="text"/>	<input type="password"/>	9	<input type="text"/>	<input type="password"/>
5	<input type="text"/>	<input type="password"/>	10	<input type="text"/>	<input type="password"/>

Admin

HTTP 接続用

No.	ユーザーID	パスワード	No.	ユーザーID	パスワード
1	admin	*****	4	<input type="text"/>	<input type="password"/>
2	<input type="text"/>	<input type="password"/>	5	<input type="text"/>	<input type="password"/>
3	<input type="text"/>	<input type="password"/>			

Supervisor

HTTP接続用

No.	ユーザーID	パスワード	No.	ユーザーID	パスワード
1	super	*****	4	<input type="text"/>	<input type="password"/>
2	<input type="text"/>	<input type="password"/>	5	<input type="text"/>	<input type="password"/>
3	<input type="text"/>	<input type="password"/>			

適用 リセット

Ident : (HTTP 接続用) システム情報の参照のみ (※ 最大 10 件登録)

Control : (HTTP 接続用) システム情報参照と電源の制御のみ (※ 最大 10 件登録)

Admin : (HTTP 接続用) 全ての権限 (※ 最大 5 件登録)

ユーザーID(デフォルト : admin) パスワード(デフォルト: magic)

Supervisor : (HTTP 接続用) Ident 権限に CPU リセット機能を追加
(※最大 5 件登録)

ユーザーID(デフォルト : super) パスワード(デフォルト: illusion)

ユーザーID : 最大半角 8 文字 (重複不可) (@は不可)
パスワード : 最大半角 16 文字 (重複可)

2) 設定が終了しましたら「適用」をクリックします。

<p>注意 “COM ポート/TELNET 接続用” に関しては「第 6 章 その他の制御」及び「第 8 章 シャットダウンスクリプト」 をご確認ください。</p>

2-1-3-2 セキュリティ詳細設定

1) 「セキュリティ詳細設定」をクリックします。セキュリティ詳細設定画面が表示されます。

セキュリティ詳細設定画面

セキュリティ設定

ユーザーアカウント設定 **セキュリティ詳細設定** 基本設定に戻る

IPフィルター設定

IPフィルター機能	<input type="radio"/> 有効 <input checked="" type="radio"/> 無効
アドレス1	192.168.10.0
アドレス2	
アドレス3	
アドレス4	
アドレス5	
アドレス6	
アドレス7	
アドレス8	
アドレス9	
アドレス10	

ident Control 権限の表示操作制限

監視状態表示	<input type="radio"/> 隠す <input checked="" type="radio"/> 表示
仮想アウトレット制御	<input type="radio"/> 隠す <input checked="" type="radio"/> 表示
一斉電源制御	<input type="radio"/> 隠す <input checked="" type="radio"/> 表示
電源ONボタン	<input type="radio"/> 隠す <input checked="" type="radio"/> 表示
電源OFFボタン	<input type="radio"/> 隠す <input checked="" type="radio"/> 表示
電源リポートボタン	<input type="radio"/> 隠す <input checked="" type="radio"/> 表示
アウトレット1 関連	<input type="radio"/> 隠す <input checked="" type="radio"/> 表示
アウトレット2 関連	<input type="radio"/> 隠す <input checked="" type="radio"/> 表示
アウトレット3 関連	<input type="radio"/> 隠す <input checked="" type="radio"/> 表示
アウトレット4 関連	<input type="radio"/> 隠す <input checked="" type="radio"/> 表示
全アウトレット制御ボタン	<input type="radio"/> 隠す <input checked="" type="radio"/> 表示

機器制御

バージョンアップ機能

適用 リセット

- ① IPフィルター設定
- | | | |
|-----------|---|--------------------------------------|
| IPフィルター機能 | : | 有効 無効 |
| アドレス | : | 192.168.10.0 (デフォルト)
(最大 10 アドレス) |

- ② Ident Control 権限の表示制限
- | | | |
|---------------|---|-------|
| 監視状態表示 | : | 隠す 表示 |
| 仮想アウトレット制御 | : | 隠す 表示 |
| 一斉電源制御 | : | 隠す 表示 |
| 電源 ON ボタン | : | 隠す 表示 |
| 電源 OFF ボタン | : | 隠す 表示 |
| 電源リブートボタン | : | 隠す 表示 |
| アウトレット 1-4 関連 | : | 隠す 表示 |
| 全アウトレット制御ボタン | : | 隠す 表示 |

「隠す」にチェックすると WEB 接続時、Ident Control 権限での各表示を隠すことができます。

③ 機器制御：バージョンアップ機能

無効 :ファームウェア更新機能を無効にします。

ローカルファイルのみ :ファームウェア更新をローカルからのみ有効にします。

オンラインのみ :ファームウェア更新を明京サーバーからのみ有効にします。

有効 :ファームウェア更新をローカル/明京サーバーの両方から有効にします。

2) 設定が終了しましたら「適用」をクリックします。

注意 「適用」をクリックしないと設定した内容が有効になりません。

2-2 通信設定

本装置のネットワークに関する設定をします。

2-2-1 通信基本設定

1) 「通信基本設定」をクリックします。通信基本設定画面が表示されます。

通信基本設定画面

通信基本設定

通信設定 通信詳細設定 メール設定

※入力項目は半角英数のみ有効

ネットワーク設定

IPアドレス	192.168.10.1
サブネットマスク	255.255.255.0
デフォルトゲートウェイ	
DNSサーバーアドレス	
DHCP機能	<input type="radio"/> 有効 <input checked="" type="radio"/> 無効
NTPサーバー	
NTP更新間隔	6 (1=10分)
HTTP機能	<input checked="" type="radio"/> 有効 <input type="radio"/> 無効
HTTP認証	Digest
認証領域(realms)名称	RPC-MSCS
nonce有効時間	180
HTTPポート	80
TELNET機能	<input type="radio"/> 有効 <input checked="" type="radio"/> 無効
TELNETポート	23
TELNET中継先IP	
TELNET中継先ポート	23
リンク速度とDuplex	自動検知
自動ログアウト監視	<input checked="" type="radio"/> 有効 <input type="radio"/> 無効

※ネットワーク設定はCPUリセット後に有効になります。

関連項目

無通信タイマー(秒)	600
WEB自動更新機能	<input type="radio"/> 有効 <input checked="" type="radio"/> 無効
WEB自動更新間隔(秒)	30

ダイレクトWEBコマンド制御

ダイレクトWEBコマンド	<input type="radio"/> 有効 <input checked="" type="radio"/> 無効	[?]
実行後の動作	標準	
アウトレット表示制限	1 2 3 4	<input checked="" type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/>
表示制限	死活表示	<input checked="" type="checkbox"/>
	温度表示	<input checked="" type="checkbox"/>

適用 リセット

① ネットワーク設定

IPアドレス	デフォルト	: 192.168.10.1
サブネットマスク	デフォルト	: 255.255.255.0
デフォルトゲートウェイ	デフォルト	: 0.0.0.0
DNSサーバーアドレス	デフォルト	: 0.0.0.0
DHCP機能	デフォルト	: 無効
NTPサーバー	デフォルト	: 0.0.0.0
NTP更新間隔	デフォルト	: 6 (×10分)
HTTP機能	デフォルト	: 有効
HTTP認証	デフォルト	: Digest 認証
認証領域 (realm) 名称	デフォルト	: RPC-M5CS (半角 63 文字以内) 180 (秒)
nonce 有効時間	デフォルト	: 設定可能値 30 ~30000
HTTPポート	デフォルト	: 80
TELNET機能	デフォルト	: 無効
TELNETポート	デフォルト	: 23
TELNET中継先IP	デフォルト	: 0.0.0.0
TELNET中継先ポート	デフォルト	: 23
リンク速度とDuplex	デフォルト	: 自動検知
自動ログアウト監視	デフォルト	: 有効

注意

HTTP 認証を「none」に設定するとブラウザでアクセス時にログイン画面が表示されます。
「Basic」または「Digest」に設定するとブラウザ依存のポップアップ画面に ID とパスワードを入力する方式になります。

外部のネットワークから接続するため、IP アドレスを固定にしてルーターのポートフォワーディング機能を利用する場合は、DHCP を無効にしてください。

注意

DHCP 利用中、IP アドレスの取り直しが行われると本装置は自動的に CPURESET を行います。

② 関連項目

無通信タイマー	:	自動ログアウトまでの時間を設定します。 デフォルト : 600 設定可能値 : 30 ~ 30000 (秒)
WEB 自動更新機能	:	デフォルト 無効
WEB 自動更新間隔	:	WEB と電源制御画面の自動更新間隔時間を設定します。 デフォルト : 30

③ ダイレクトWEBコマンド制御

ダイレクトWEBコマンド	:	デフォルト 無効
実行後の動作	:	実行後の動作を設定します。
アウトレット表示制限	:	チェックしたアウトレットを表示します。
表示制限	:	チェックした表示制限項目を表示します。

注意	ダイレクトWEB コマンドについては「第6章 その他の制御」の「5. WEB コマンドからの制御」をご確認ください。
-----------	--

2) 設定が終了しましたら「適用」をクリックします。

2-2-2 通信詳細設定

1) 「通信詳細設定」をクリックします。通信詳細設定画面が表示されます。

通信詳細設定画面

通信詳細設定

通信設定 通信詳細設定 メール設定

※ 入力項目は半角英数のみ有効

カスタマイズ設定

ユーザーHTML 設定

SNMP基本設定

SET GET設定 有効 無効

GETコミュニティ名 public

SETコミュニティ名 public

TRAPコミュニティ名 public

マネージャーTrap 有効 無効

Authen Trap 有効 無効

トラップIPアドレス1

トラップIPアドレス2

トラップIPアドレス3

トラップIPアドレス4

トラップIPアドレス5

トラップIPアドレス6

トラップIPアドレス7

トラップIPアドレス8

※ネットワーク設定はOPUリセット後に有効になります。

SNMPフィルター設定

SNMPフィルター機能 有効 無効

	フィルターIPアドレス	フィルターマスク
1		255.255.255.255
2		255.255.255.255
3		255.255.255.255
4		255.255.255.255
5		255.255.255.255
6		255.255.255.255
7		255.255.255.255
8		255.255.255.255
9		255.255.255.255
10		255.255.255.255

状態通知機能

状態通知機能 有効 無効

1	IPアドレス	
	ポート	5000
2	IPアドレス	
	ポート	5000
3	IPアドレス	
	ポート	5000
送信間隔(秒)		300

一斉電源制御受付

機能有効とグループ指定 無効

制御側MACアドレス制限

※MACアドレスの形式 00:00:00:00:00:00

適用 リセット

2-2-3 SNMP 基本設定

SNMP に関する設定をします。

① SNMP基本設定

SETGET 設定		:	有効 無効
			Public
GET コミュニティ名	デフォルト	:	(全角 10 文字 半角 20 文字以内)
			Public
SET コミュニティ名	デフォルト	:	(全角 10 文字 半角 20 文字以内)
			Public
TRAP コミュニティ名	デフォルト	:	(全角 10 文字 半角 20 文字以内)
マネージャートラップ		:	有効 無効
AuthenTrap		:	有効 無効
トラップ IP アドレス	デフォルト	:	0.0.0.0 (最大 8 IP アドレス)

② SNMPフィルター設定

SNMPフィルター機能		:	有効 無効
フィルター IP アドレス	デフォルト	:	0.0.0.0
フィルターマスク	デフォルト	:	255.255.255.255 (最大 10 アドレス)

③ 状態通知機能

状態通知機能		:	有効 無効
通知先 IP アドレス 1-3	デフォルト	:	0.0.0.0
通知先 ポート 1-3	デフォルト	:	5000
送信間隔(秒)	デフォルト	:	300

注意 状態通知機能については「第 10 章 ネットワーク稼働監視」をご確認ください。

④ 一斉電源制御受付

機能有効とグループ指定 : 無効 グループ 1~8
制御側MACアドレス制御 :

一斉電源制御について

一斉電源制御機能とは、最大8グループに分けられた複数の本装置を、グループ単位に制御する機能のことです。ブロードキャストパケットを利用しています。一斉電源制御受付では、本装置をどのグループにするかを設定します。

制御側 MAC アドレス制限を設定し、制御側の機器を設定してください。

一斉電源制御を有効にするには「CPUリセット」が必要です。

一斉電源制御が有効な場合、電源制御可能な他のユーザーはログインすることが出来ません。

ただし、Supervisor 権限でのログインは可能です。

2) 設定が終了しましたら「適用」をクリックし、CPUリセットを実行します。

注意 「適用」ボタンをクリックしないと設定した内容が有効になりません。設定によっては、「CPUリセット」ボタンをクリックしないと設定した内容が有効になりません。

2-2-4 ユーザーHTML 設定

ユーザーHTML に関する設定をします。

カスタマイズ設定、ユーザーHTML の「設定」をクリックします。
ユーザーHTML 設定画面が表示されます。

ユーザーHTML 設定画面

ユーザーHTML登録

ユーザーHTML設定

登録ファイルなし

参照... 読込

htmlファイルを指定してください。

- 1行は255文字まで
- 最大サイズは8189バイトまで
- シフトJIS(Shift_JIS)のみ対応
- html内で%を%%に書き換えてください。

機能	<input type="radio"/> 有効 <input checked="" type="radio"/> 無効
接続ポート	8080
自動更新間隔	10 (秒)
ボタン名称 電源ON	ON
ボタン名称 電源OFF	OFF
ボタン名称 電源REBOOT	REBOOT
ボタン名称 電源REVERSE	PUSH
ボタンサイズ 横/縦	W120 H60

ユーザー拡張1 (userHtmlText)

ユーザー拡張2 (userHtmlFile)

ユーザー拡張3 (userHtmlAddress)

動作確認メッセージ 日本語 English

状態自動更新

状態自動更新時間 10 (秒)

1	2	3	4	5	6	7	8
<input checked="" type="checkbox"/>							
9	10	11	12	13			
<input checked="" type="checkbox"/>							

適用

① ユーザーHTML 設定

機能			: 有効 無効
接続ポート		デフォルト	: 8080
自動更新間隔		デフォルト	: 10 (秒)
ボタン名称	電源 ON	デフォルト	: (全角 9 文字、 半角 16 文字以内) ON
ボタン名称	電源 OFF	デフォルト	: (全角 9 文字、 半角 16 文字以内) OFF
ボタン名称	電源 REBOOT	デフォルト	: (全角 9 文字、 半角 16 文字以内) REBOOT
ボタン名称	電源 REVERSE	デフォルト	: (全角 9 文字、 半角 16 文字以内) REVERSE
ボタンサイズ	横/縦	デフォルト	: W120 H60 (設定可能値 1~999)
ユーザー拡張 1 (userHtmlText)			全角 127 文字、 半角 255 文字以内
ユーザー拡張 2 (userHtmlFile)			全角 127 文字、 半角 255 文字以内
ユーザー拡張 3 (userHtmlAddress)			全角 31 文字、 半角 63 文字以内
動作確認メッセージ			日本語・English
状態自動更新時間		デフォルト	: 10 (秒)
状態自動更新			

注意 ユーザーHTML に関する Sample データ及び情報については
以下のページをご覧ください。
<http://www.meikyo.co.jp/archive/>

2-2-5 メール設定

監視機能で異常時および復旧時にメールを送信するアドレスを設定します。

1) 「メール設定」をクリックします。

メール設定画面

メール設定

通信設定 通信詳細設定 **メール設定**

※ 入力項目は半角英数のみ有効

メールサーバ設定

ユーザー名	<input type="text"/>
パスワード	<input type="password"/>
メールアドレス	<input type="text"/>
受信サーバ名	<input type="text"/>
受信ポート	110
送信サーバ名	<input type="text"/>
送信ポート	25
自動ログアウト時間(分)	10
メールチェック間隔(分)	3
メールリトライ間隔(秒)	10
メールサーバ形式	<input type="radio"/> IMAP <input checked="" type="radio"/> POP3

SMTP認証 無効 有効

CRAM-MD5 LOGIN PLAIN

IMAP認証 CRAM-MD5 LOGIN

APOP利用 無効 有効

メール制御設定

メール制御コマンド有効 無効 有効

メール制御ユーザー名

メール制御パスワード

送信メール 件名	機器名称
送信メール 本文1行目	日時又は積算時間
送信メール 本文2行目	設置場所
送信メール 本文3行目	機器IPアドレス
送信メール 本文4行目	MACアドレス
送信メール 本文5行目	ユーザー任意1
送信メール 本文6行目	イベント内容
送信メール 本文7行目	表示無し
送信メール 本文8行目	表示無し

ユーザー任意1

ユーザー任意2

ユーザー任意3

通知先設定

No.	通知先アドレス
アドレス1	<input type="text"/>
アドレス2	<input type="text"/>
アドレス3	<input type="text"/>
アドレス4	<input type="text"/>
アドレス5	<input type="text"/>
アドレス6	<input type="text"/>
アドレス7	<input type="text"/>
アドレス8	<input type="text"/>

送信条件フラグ

No.	F1	F2	F3	F4
アドレス1	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
アドレス2	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
アドレス3	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
アドレス4	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
アドレス5	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
アドレス6	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
アドレス7	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
アドレス8	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

F1:PING F2:温度 F3:スケジュール F4:ハートビート

ログ送信カウント

[送信テスト画面へ]

メールサーバーからのエラーメッセージ情報

クリア

エラーメッセージをネット検索すると解決策がわかる場合もあります

① メールサーバー設定

ユーザー名、パスワード、メールアドレス、受信サーバー名、受信ポート
送信サーバー名、送信ポートは、プロバイダからのメール資料に基づき設定し
ます。

自動ログアウト時間（分） デフォルト : 10

メールチェック間隔（分） デフォルト : 3

メールリトライ間隔（秒） デフォルト : 10

（変数 mailRetryCount で設定した回数送信します。デフォルト：3回）

メールサーバ形式 : POP3 IMAP を選択

S M T P 認証 : 認証方法を選択

CRAM-MD5、LOGIN、PLAIN

I M A P 認証 : 認証方法を選択

CRAM-MD5、LOGIN

A P O P 利用 : 有効 無効

② メール制御設定

メール制御コマンド : 有効 無効
メール制御ユーザ名 : 半角英数字 63 文字以内
メール制御パスワード : 半角英数字 63 文字以内

送信メール 件名 表示無し/機器名称/設置場所
機器IPアドレス/MACアドレス
イベント内容/ユーザー任意 1~3
より選択します。

送信メール 本文 1 行目 日時又は積算時間
送信メール 本文 2 行目
送信メール 本文 3 行目
送信メール 本文 4 行目
送信メール 本文 5 行目 9 点より選択 (送信メール 件名と同項目)
送信メール 本文 6 行目
送信メール 本文 7 行目
送信メール 本文 8 行目
ユーザー任意 1~3 任意のメール通知文を設定
全角 21 文字、半角 43 文字以内

③ 通知先設定

通知先アドレス

通知するメールアドレスを設定します。

最大 8 件設定できます。

送信条件フラグ

4 種類(PING/温度/スケジュール/ハートビート)から選択できます。

チェックしたフラグに連動してメールが送信されます。例えば、「PING」

では死活監視が[異常]または[回復]に変化した時にメールを送信します。

ログ送信カウント : 設定した数だけログが更新されると通知先アドレス
にログを送信します。

(MAX: 20 0 の時は送信しません。)

④ メールサーバのエラーメッセージ情報

メールに失敗した場合、エラー情報を表示します。

クリアにチェックして「適用」をクリックすると消去できます。

2) 設定が終了しましたら「適用」をクリックします。

- 3) 「送信テスト画面へ」をクリックし、送信テスト画面を表示させ、テストメール送信の「送信」をクリックすると設定されている通知先アドレスにテストメールを送信します。

送信テスト画面

送信テスト

Wake On LAN 送信テスト

アウトレット1	送信
アウトレット2	送信
アウトレット3	送信
アウトレット4	送信

メール送信テスト

テストメール送信 送信

[\[エラーメッセージ確認\]](#)

注意 「適用」ボタンをクリックしないと設定した内容が有効になりません。設定によっては、「CPUリセット」ボタンをクリックしないと設定した内容が有効になりません。

メール送信のみの利用で POP/IMAP 認証を行わない場合でも、ユーザー名、パスワードは必要です。ダミーデータを設定してください。

設定したメールアドレスのメールサーバー内のメールは、メールチェック間隔でメールサーバー内のメールをチェックした後、削除されます。

2-3 監視設定

本装置の監視に関する設定をします。

2-3-1 P I N G 監視

1) 「監視設定」をクリックします。P I N G 監視設定画面が表示されます。

P I N G 監視設定画面

監視設定

PING監視

メールサーバー監視 ハートビート 温度監視

詳細設定 ※ 入力項目は半角英数のみ有効

監視先	DG送信	無答
1	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
1	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
2	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
4	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

▲ アウトレット番号

PING送信間隔(分) 1

死活監視レポートによる警告(回) 12

※PILOT LEDを赤点灯させる全アウトレットの死活監視レポート回数

回復不可時の1時間ごとの繰り返し回数制限(回)

1 0 2 0 3 0 4 0

※0無制限

・(監視先)に対してICMPを(PING送信間隔)分毎に1個送信します。
 G送信回数内に(無答)回数回、応答が無いと異常と判断し(動作)を実行します。

・DGをチェックする事により、Default Gateway(ルータ等)を監視対象にします。
 ・アウトレット電源OFFの場所はPING監視は行いません。
 ・レポート復旧しない場合1時間毎に動作を繰り返します。

適用 リセット

「詳細設定」にチェックし、「適用」をクリックします。
PING監視詳細設定画面が表示されます。

P I N G 監視詳細設定画面

監視設定

PING監視
メールサーバー監視
ハートビート
温度監視

詳細設定
 ※ 入力項目は半角英数のみ有効

監視先	DG	送信	無答	対象
1	<input type="checkbox"/>	10	10	1
2	<input type="checkbox"/>			
3	<input type="checkbox"/>	動作	回数	間隔
4	<input type="checkbox"/>	無動作	1	1

▲ アウトレット番号

監視先	DG	送信	無答	対象
1	<input type="checkbox"/>	10	10	1
2	<input type="checkbox"/>			
3	<input type="checkbox"/>	動作	回数	間隔
4	<input type="checkbox"/>	無動作	1	1

▲ アウトレット番号

監視先	DG	送信	無答	対象
1	<input type="checkbox"/>	10	10	1
2	<input type="checkbox"/>			
3	<input type="checkbox"/>	動作	回数	間隔
4	<input type="checkbox"/>	無動作	1	1

▲ アウトレット番号

監視先	DG	送信	無答	対象
1	<input type="checkbox"/>	10	10	1
2	<input type="checkbox"/>			
3	<input type="checkbox"/>	動作	回数	間隔
4	<input type="checkbox"/>	無動作	1	1

▲ アウトレット番号

PING 送信間隔 (分)

死活監視レポートによる警告 (回)

※PILOT LEDを赤点灯させる全アウトレットの死活監視レポート回数

回復不可時の1時間ごとの繰り返し回数制限 (回)

1 2 3 4

※0:無制限

- ・ (監視先)に対してICMPを(PING 送信間隔)分毎に1個送信します。
- ・ (送信)回数内に(無答)回数回、応答が無いと異常と判断します。
- ・ 異常と判断した監視先が(対象)数に達すると異常と判定し(動作)を実行します。
- ・ DGをチェックする事により、Default Gateway(ルータ等)を監視対象にします。
- ・ アウトレット電源OFFの場合はPING監視は行いません。
- ・ 動作後も応答がない場合は、動作を(間隔)分間隔で(回数)回行い、以降は1時間周期で動作を繰り返します。

適用
リセット

- ① 監視先： 監視するIPアドレス又はドメイン名を設定します。
各アウトレットに最大4ヶ所設定できます。(詳細設定のみ)
例 IPアドレス : 192.168.0.1
例 ドメイン名 : www.meikyo.co.jp
- ② DG： チェックでデフォルトゲートウェイを監視先に指定します。
- ③ 送信： 判断するための送信する回数を設定します。
設定可能値 : 1~100 (回)
- ④ 無答： 送信回数内で異常と判断する無応答回数を設定します。
設定可能値 : 1~100 (回)
- ⑤ 対象： 動作を実行させるための異常な監視先アドレスの数を設定します。
1~4 (詳細設定のみ)
- ⑥ 動作： 動作を選択します。
無動作 : PING監視を行いません。
リポート : ログに記録し、電源出力をOFF/ONします。
ログのみ : ログに記録します。電源は制御しません。
- ⑦ PING 送信間隔 (分)： ICMPエコー要求パケットの送信間隔を設定します。 設定可能値 :1~60
- ⑧ 死活監視リポートによる警告 (回)： デフォルト 12
PILOT LEDを点滅させる全アウトレットの死活監視リポート回数
- ⑨ 回復不可時の1時間ごとの繰り返し回数制限 (回)： デフォルト 0 (無制限)

2) 設定が終了しましたら「適用」をクリックします。

監視設定が有効なアウトレットはアウトレット番号の背景色が「青色」に変わります。また、PING監視が正常な場合は監視番号の背景色が「青色」に変わり、異常が発生している場合は「赤色」、回復中は「黄色」に変わります。

注意

応答のない状態が続いた場合は、約1時間毎に設定された動作を実行します。再度、条件が成立しても動作は1時間に1度しか実行しません。
ハートビートによる監視設定がされている場合は、PING監視は実行されません。

P I N G 監視の仕組みと動作

監視先アドレスに対して [PING 送信間隔] で設定した間隔で I C M P エコー要求パケットを 1 個送出し、応答を待ちます。

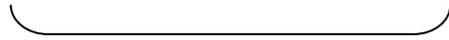
設定した [送信]回数内で設定した [無答]回数、無応答であるとその監視先を異常と判断します。

異常と判断された監視先が [対象]数に達すると、そのアウトレットを異常と判定し、設定した [動作]を実行します。

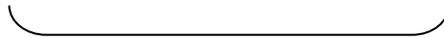
判定例) 送信回数:6 無答回数:3 の場合

応答 有 → 無 → 有 → 無 → 有 → 無 → 異常と判断

正常



異常



異常と判断した監視先が、対象数に達すると、アウトレットを異常と判定し動作します。

異常と判定した後、

監視先すべてから応答があると→「正常」と判定します。

一部の監視先から応答があり、異常と判断した監視先が対象数を下回ると→「回復中」と判定します。

「正常」「回復中」になった後は、再び、同じ条件で監視を行います。

2-3-3 ハートビート

- 1) 「ハートビート」をクリックします、ハートビート設定画面が表示されます。

ハートビート設定画面

- 3) ハートビートを利用するには「ハートビートを利用する」にチェックし「適用」をクリックします。

アウトレット毎の動作を選択します。

- 無効 : ハートビート動作を行いません。
- ON : 電源出力をONします。
- ON 追従 : 電源出力をON追従します。
- OFF : 電源出力をOFFします。
- OFF 追従 : 電源出力をOFF追従します。
- リブート : 電源出力をOFF / ONします。

ハートビートを設定します。

- 待ち受けポート : パケット待ち受けポート
デフォルト : 9100
- 送信側IPアドレス指定 : ハートビート・パケットを受け付ける送信側アドレス
(空白は全て受信) (空白は全てパケットを受け付ける)
- 送信側ポート確認 : PC側(HB側)の送信ポート
デフォルト : 9100
- リポート監視時間 : アウトレットリポート後、パケット受信不可をチェックするまでの時間 デフォルト : 30
設定可能値 1~99(秒)
- パケットを受ける間隔 : ハートビート・パケットを受ける間隔
デフォルト : 8 設定可能値 1~99(秒)
- 動作を行うカウント : 動作を行うカウント
デフォルト : 3 設定可能値 1~99(回)
- 実行回数限度 : リポートの場合の実行回数限度
デフォルト : 3 設定可能値 1~99(回)

パケット状態

パケット状態、送信元IP、未受信カウントを表示します。

3) 設定が終了しましたら「適用」をクリックします。

注意 「ハートビート」を設定すると、「PING監視」は設定できません。

2-3-4 温度監視

1) 「温度監視」をクリックします、温度監視設定画面が表示されます。

温度監視設定画面

監視設定			
PING監視	メールサーバー監視	ハートビート	温度監視
<input checked="" type="checkbox"/> 温度センサーを利用する		<input type="checkbox"/> メンテナンスモード	
1	動作しません。	動作	無動作
▲ アウトレット番号			
2	動作しません。	動作	無動作
▲ アウトレット番号			
3	動作しません。	動作	無動作
▲ アウトレット番号			
4	動作しません。	動作	無動作
▲ アウトレット番号			
指定温度設定			
上限警報	45	下限警報	-5
上限注意	35	下限注意	0
上限Hys	2	下限Hys	2
温度状態		24.1 °C	
正常			
適用			
リセット			

2) 本装置と温度センサー（別売）を接続します。

① 温度に関する設定をします。

上限警報 : 高温の警報温度を設定します。
(デフォルト: 45°C)

上限注意 : 高温の注意温度を設定します。
(デフォルト: 35°C)

上限Hys : 高温のヒステリシス温度を設定します。
(デフォルト: 2°C)

下限警報 : 低温の警報温度を設定します。
(デフォルト: -5°C)

下限注意 : 低温の注意温度を設定します。
(デフォルト: 0°C)

下限Hys : 低温のヒステリシス温度を設定します。
(デフォルト: 2°C)

動作 : 警報の時の動作を設定します。

無動作 上限警報ON 下限警報ON
上限警報OFF 下限警報OFF

② 温度範囲（測定温度範囲は-10~80℃）

正常範囲	:	下限注意 から 上限注意 までの温度
注意範囲	:	上限注意 から 上限警報 までの温度 下限警報 から 下限注意 までの温度
異常範囲	:	上限警報 以上の温度 下限警報 以下の温度

3) 温度センサーを利用する

チェックすると温度センサーが利用でき、温度データを表示します。

4) メンテナンスモード

チェックすると温度監視による電源変化は行われません。

注意 「温度監視」を設定すると、「PING 監視」は設定できません。

温度監視の仕組みと動作

状態は、指定した温度により、「正常」から「注意」、「注意」から「警報」に変化します。

しかし、「警報」から「注意」、「注意」から「正常」への状態変化には、指定した温度にヒステリシス温度を加えた変化が必要です。これにより閾値近辺で状態が頻繁に変化することを防ぎます。

メールは、温度にチェックがあると、「正常」「注意」「警報」の状態に変化すると送信されます。

電源制御は、「警報」になった場合に実施されます。

2-4 スケジュール設定

本装置のスケジュールに関する設定をします。最大 20 件登録できます。

1) 「スケジュール設定」をクリックします。

スケジュール設定画面

スケジュール設定

 NTPサーバーへの接続に失敗しています。
時刻が未設定または不正確な場合があります。

スケジュールリスト

No.	有効	アウトレット	曜日	時	分	動作
1	<input type="checkbox"/>	全アウトレット	毎日	0	0	無動作
2	<input type="checkbox"/>	全アウトレット	毎日	0	0	無動作
3	<input type="checkbox"/>	全アウトレット	毎日	0	0	無動作
4	<input type="checkbox"/>	全アウトレット	毎日	0	0	無動作
5	<input type="checkbox"/>	全アウトレット	毎日	0	0	無動作
6	<input type="checkbox"/>	全アウトレット	毎日	0	0	無動作
7	<input type="checkbox"/>	全アウトレット	毎日	0	0	無動作
8	<input type="checkbox"/>	全アウトレット	毎日	0	0	無動作
9	<input type="checkbox"/>	全アウトレット	毎日	0	0	無動作
10	<input type="checkbox"/>	全アウトレット	毎日	0	0	無動作
11	<input type="checkbox"/>	全アウトレット	毎日	0	0	無動作
12	<input type="checkbox"/>	全アウトレット	毎日	0	0	無動作
13	<input type="checkbox"/>	全アウトレット	毎日	0	0	無動作
14	<input type="checkbox"/>	全アウトレット	毎日	0	0	無動作
15	<input type="checkbox"/>	全アウトレット	毎日	0	0	無動作
16	<input type="checkbox"/>	全アウトレット	毎日	0	0	無動作
17	<input type="checkbox"/>	全アウトレット	毎日	0	0	無動作
18	<input type="checkbox"/>	全アウトレット	毎日	0	0	無動作
19	<input type="checkbox"/>	全アウトレット	毎日	0	0	無動作
20	<input type="checkbox"/>	全アウトレット	毎日	0	0	無動作

注意！ 仮想アウトレットの場合、「電源OFF」「リポート」では動作しません。「電源ON」のみ動作します。

- ① 有効 : 設定したスケジュールの有効/無効
チェックした No.が有効になります。

- ② アウトレット : 制御するアウトレット No.
全アウトレット、アウトレット 1～4
全仮想アウトレット、仮想アウトレット 1～8

- ③ 曜日 : 実行する曜日（毎日または指定曜日）
毎日 日曜 月曜 火曜 水曜
木曜 金曜 土曜

- ④ 時 : 実行する時間
0 ～ 23

- ⑤ 分 : 実行する分
0 ~ 59
- ⑥ 動作 : 実行する動作
無動作 リポート 電源ON 電源OFF、定時メール
(仮想アウトレットではONのみ有効)

2) 設定が終了しましたら「適用」をクリックします。

注意

スケジュール設定を使う場合はNTPサーバーの設定が必要になります。
通信基本設定で設定してください。
NTPサーバーの接続に失敗した場合は、エラーメッセージが表示されます。

2-5 システム情報

本装置に設定された各項目の概要情報を一覧で確認できます。

- 1) 「システム情報」をクリックします。

システム情報画面

The screenshot shows a web interface for system information. At the top, there is a green header with the text 'システム情報' (System Information) and a '更新' (Refresh) button. Below the header is a section titled 'システム基本' (System Basic) with two buttons: '設定詳細表示' (Show Detailed Settings) and 'ファームウェア更新' (Firmware Update). The main content is divided into two sections. The first section lists device details, and the second section lists network and communication settings.

システム基本	
機器名称	Noname
バージョン	1.00A.170116
モデル名	RPC-M6CS
アウトレット数	4
アウトレット1名称	Outlet1
アウトレット2名称	Outlet2
アウトレット3名称	Outlet3
アウトレット4名称	Outlet4
機器内部時間	
仮想アウトレット1名称	
仮想アウトレット2名称	
仮想アウトレット3名称	
仮想アウトレット4名称	
仮想アウトレット5名称	
仮想アウトレット6名称	
仮想アウトレット7名称	
仮想アウトレット8名称	

MACアドレス	00:09:EE:00:BC:29
IPアドレス	192.168.10.1
サブネットマスク	255.255.255.0
デフォルトゲートウェイ	
NTPサーバーアドレス	(NG)
HTTP機能	有効
HTTPポート	80
TELNET機能	無効
TELNETポート	23
LAN接続速度	100.0Mbps

RS-232C 通信速度	38400bps
RS-232C キャラクター長	8 bits
RS-232C ストップビット	1 bit(s)
RS-232C パリティ	None

2-5-1 設定詳細表示

- 1) 「設定詳細表示」をクリックします。
- 2) WEB 画面に全変数が表示されます。

2-5-2 ファームウェア更新

ファームウェア更新は「オンライン(明京サーバー)自動アップデート」か「ローカルファイルの選択」からバージョンアップ方法の選択をし、実行します。

- 1) 「ファームウェア更新」をクリックします。
- 2) バージョンアップ方法の選択画面が表示されます。

バージョンアップ方法の選択画面

バージョン	0.10A.161221
モデル名	RPC-M5CS
オンライン自動アップデート	<input type="button" value="ファームの確認"/>
ローカルファイルの選択	<input type="button" value="ファイル選択"/>

明京サーバーからダウンロード画面

バージョンアップ用ファイルの送信画面

画面の指示に従って実行してください。

実行後、バージョンアップ結果の画面が表示されます。

バージョンアップ結果画面

code	内容
0	正常終了
1	現在のバージョンが最新である
2	設定でバージョンアップが許可されていない
3	DNSエラーを検出した
4	明京電機サーバーへのアクセスエラーが発生した
5	バージョンアップファイルが見つからなかった
11-15	ヘッダ情報が不当である
21-30	ファイル構成が不当である
31	CRCが不当である
32-36	ヘッダ情報と実際のファームが一致していない

注意 バージョンアップ機能の制御については「第4章 Webブラウザでの設定、制御」の「セキュリティ詳細設定」をご確認ください

2-6 PING送信

本装置からのPING送信の確認できます。

- 1) 「PING送信」をクリックします。

PING送信画面

測定先アドレスを指定してください。

PING確認

- ① 「測定先アドレスを指定してください。」の欄に、測定先アドレスを入力し、「PING確認」をクリックして下さい。
- ② 測定中は「測定中」の表示がされます。
- ③ 測定結果が表示されます。

正常 : Reply from xxx.xxx.xxx.xxx --- time=yyymms
xxx.xxx.xxx.xxx : 測定先アドレス
yyy : 応答時間(ミリ秒)

異常 : Request timed out.
応答が異常時

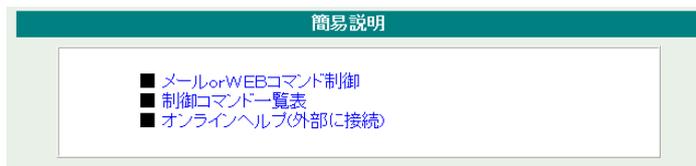
異常 : Domain name not found.
ドメイン名が存在しない

2-7 簡易説明

本装置の簡易説明が確認できます。

「簡易説明」をクリックします。

簡易説明画面



メール orWEBコマンド制御

メールからの制御

メールを利用して電源制御

WEB からダイレクトコマンド制御

WEB コマンドでの制御方法

利用可能コマンド

制御コマンド一覧表

オンラインヘルプ(外部に接続)

3. 状態表示項目

3-1 簡易情報表示

現在の本装置の電源情報、温度状態を表示します。

- 1) 「簡易情報表示」をクリックします。

簡易情報表示画面

簡易情報表示				更新
アウトレット情報				
No.	アウトレット名称	監視	電源	
1	Outlet1		ON	
2	Outlet2		ON	
3	Outlet3		ON	
4	Outlet4		ON	

温度状態	
2017/01/12 20:58:34	24.5℃
正常	
2017/01/11 09:46	MAX 29.30℃
2017/01/12 08:37	MIN 17.40℃

機器情報	
機器名称	Noname

注意 簡易情報表示は現在の本装置の状態を表示する画面で実際に制御することは出来ません。
温度センサーを「有効」に設定しないと温度状態は表示されません。

3-2 監視状態表示

現在の本装置の監視状態を表示します。

- 1) 「監視状態表示」をクリックします。

監視状態表示画面

監視状態表示
更新

▲ アウトレット監視状態 / 判定条件

No.	電源	死活判定 温度判定	実行数 現在温度	送信数 動作設定	無応答 警報温度	対象数 注意温度	動作 Hys温度
1		正常	0	10	10	1	無動作
2		正常	0	10	10	1	無動作
3		正常	0	10	10	1	無動作
4		正常	0	10	10	1	無動作

▲ アウトレット番号

▲ 監視先状態

No.	監視先1		監視先2		監視先3		監視先4	
	状態	無応答数	状態	無応答数	状態	無応答数	状態	無応答数
1								
2								
3								
4								

▲ アウトレット番号

▲ PING応答時間

No.	監視先1	監視先2	監視先3	監視先4
	応答時間	応答時間	応答時間	応答時間
1				
2				
3				
4				

▲ アウトレット番号

▲ ハートビート状態

No.	動作	実行数	パケット状態
1	無効	0	ハートビート無効
2	無効	0	
3	無効	0	
4	無効	0	

▲ アウトレット番号

機器情報

メール受信接続障害回数

① アウトレット監視状態/判定条件

- 電源 : 電源の状態を表示します。
- 死活判定 : 「PING 監視」および「メールサーバー監視」の判定結果を表示します。
正常：異常な監視先が対象数未満、かつメールサーバー正常。
異常：異常な監視先が対象数以上、またはメールサーバー異常。
回復中：動作後、異常な監視先が対象数未満だが、異常な監視先が残っている。メールサーバー正常。
- 温度判定 : 「温度監視」の判断結果を表示します。
- 実行数 : 「PING 監視」と「メールサーバー監視」の実行された動作の回数を表示します。
- 現在温度 : 「温度監視」の現在温度を表示します。
- 送信数 : 「PING 監視」の PING 送信回数の設定値を表示します。
- 動作設定 : 「温度監視」の動作設定を表示します。
- 無応答 : 「PING 監視」の無応答回数の設定値を表示します。
- 警報温度 : 「温度監視」の警報温度を表示します。
- 対象数 : 「PING 監視」の対象数の設定値を表示します。
- 注意温度 : 「温度監視」の注意温度を表示します。
- 動作 : 「PING 監視」と「メールサーバー監視」の動作を表示します。
- Hys 温度 : 「温度監視」のヒステリシス温度を表示します。

② 監視先状態

- 状態 : アウトレット毎に各監視先の応答状態を表示します。
- 無応答数 : ICMP エコー要求送信に対する無応答回数を表示します。

③ PING応答時間

- 応答時間 : 監視先の応答時間を表示します。

④ ハートビート状態

- 動作 : 動作状態を表示します。
- 実行数 : 実行数を表示します。
- パケット状態 : パケット状態を表示します。

⑤ 機器情報

- メール受信接続障害回数 : メール受信サーバーへの接続障害回数を表示します。

3-3 イベントログ表示

現在までのイベントログを表示します。

- 1) 「イベントログ表示」をクリックします。

イベントログ表示画面



- 2) 「更新」を押すと最新状態に更新します。

前ページ	:	前ページを表示します。
次ページ	:	次ページを表示します。
先頭ページ	:	先頭ページを表示します。
最終ページ	:	最終ページを表示します。
全ログクリア	:	ログを消去します。
TEXT 表示	:	WEB 画面にイベントログを表示します。

注意 1 ページは 100 項目単位で表示します。
最大 10 ページ、1000 項目のログを表示可能です。

4. 電源制御

本装置に接続されたデバイスの電源制御をします。

4-1 電源制御

1) 「電源制御」をクリックします。

電源制御画面

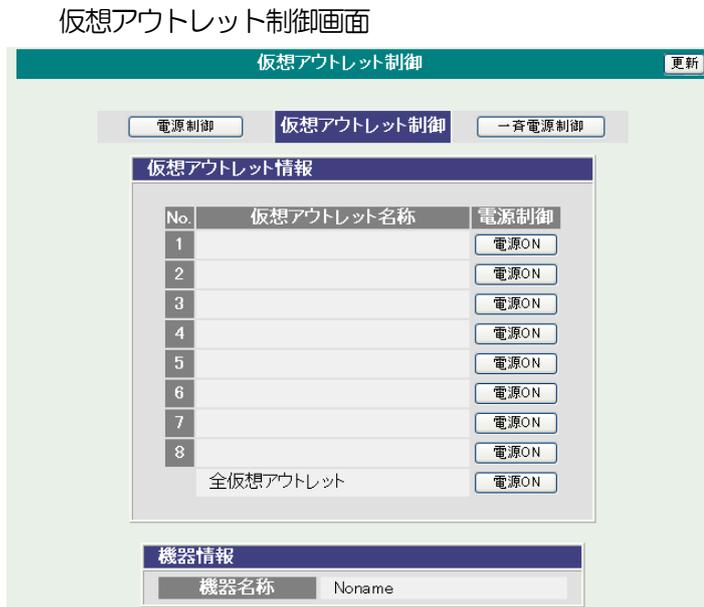
No.	アウトレット名称	制御	電源
1	Outlet1	電源ON 電源OFF リポート	ON
2	Outlet2	電源ON 電源OFF リポート	ON
3	Outlet3	電源ON 電源OFF リポート	ON
4	Outlet4	電源ON 電源OFF リポート	ON
	全アウトレット	電源ON 電源OFF リポート	

- ① 電源
現在の電源の状態を表します。
 - ② 個別アウトレット制御の動作
電源ON : 電源出力を開始します。
電源OFF : 電源出力を停止します。
リポート : 電源出力をOFF/ONします。
 - ③ 全アウトレット制御の動作
電源ON : 全アウトレットの電源出力を開始します。
電源OFF : 全アウトレットの電源出力を停止します。
リポート : 全アウトレットの電源出力をOFF/ONします。
- 2) 「更新」をクリックすると最新の電源状態を取得します。

注意 電源制御画面は「通信設定」の「WEB 自動更新間隔」に基づき常時自動で更新されます。

4-2 仮想アウトレット制御

1) 「仮想アウトレット制御」をクリックします。



仮想アウトレットについて

仮想アウトレットとは、実際には存在しないアウトレットであり、関連付けされた MAC アドレスへマジックパケットを送出して、WakeOnLAN 機能を実現させるためのものです。

- ① 個別仮想アウトレット制御の動作
電源 ON : マジックパケットを送出します。
- ② 全仮想アウトレット制御の動作
電源 ON : 全仮想アウトレットへマジックパケットを送出します。

注意 「更新」をクリックしないと画面表示とアウトレットが違う場合がありますので電源状態は「更新」をクリックして最新の状態を確認してください。
全アウトレット ON の時、個別アウトレットは1秒の遅延間隔で ON します。
(デフォルト)

4-3 一斉電源制御

1) 「一斉電源制御」をクリックします。



一斉電源制御

一斉電源制御とは、複数の本装置を最大8グループに分けて、各グループ単位で一斉制御コマンドを送り、電源を制御することが出来ます。

制御対象	:	制御するグループを選択します。
動作	:	実行する動作 電源ON 電源OFF リポート
送信	:	一斉制御コマンドを送信します。

注意

「更新」をクリックしないと画面表示とアウトレットが違う場合がありますので電源状態は「更新」をクリックして最新の状態を確認してください。

全アウトレットONの時、個別アウトレットは1秒の遅延間隔でONします。
(デフォルト)

リポートのOFF時間は10秒です。(デフォルト)

遅延時間、OFF時間及びOFF禁止などの設定は変数の変更により可能です。

5. CPUリセット

本装置の設定変更を有効にします。

- 1) 「CPUリセット」をクリックします。

CPUリセット画面



- 2) CPUリセット画面の「CPUリセット」をクリックします。

注意

CPUリセットを必要とする内容の場合、「設定項目」の「CPUリセット」の背景色が黄色になります。

「CPUリセット」をクリックすると設定した内容が有効になり、通信が切断されますが、アウトレットの状態は現状のまま保持されます。

第5章 その他の設定

1. TELNETによる設定

- 1) 「スタート」から「ファイル名を指定して実行」を選択し、テキストボックスを開きます。「初期設定」で設定したIPアドレスを以下のように指定し、本装置にアクセスします。

192.168.10.1 の場合
IPアドレス : 192.168.10.1
TELNET ポート番号 : 23

「telnet_192.168.10.1_23」
※アンダーバーはスペースを表します。

- 2) プログラムが起動し、下図のとおり表示されます。
「Noname」は機器名称の設定が反映されます。

```
220 RPC-M5CS (Noname) server ready
```

- 3) 任意のキーを入力します。IDとパスワードが要求されます。
- 4) ユーザーID（デフォルト：admin）とパスワード（デフォルト：magic）を入力し、<Enter>キーで実行します。「OK」の応答があります。

注意 ブラウザ接続時のIDとパスワードはTELNETとシリアル接続時のIDとパスワードとは別になります。
デフォルトのままですとセキュリティホールになる危険があります。
コマンドにより変更して利用することをおすすめします。

1-1 TELNETコマンドによる設定

- 1) 「スタート」から「ファイル名を指定して実行」を選択し、テキストボックスを開きます。「初期設定」で設定したIPアドレスを指定し、TELNETで本装置にログインします。
- 2) コマンドや変数などを入力し<Enter>キーで実行します。
(IPアドレスなど一部の設定はCPUリセット後に反映されます。)

■ TELNET 通信の設定関係コマンド

コマンド	内 容
LIST	全ての変数の値を表示します。
WRITE	変数の設定をFROMに書き込みます。
&SAVE	設定された変数の待避・復元ができるデータを出力します。
LOAD_BEGIN	設定データの読み込みを始めます。
LOAD_END	設定データの読み込みを終了します。
?変数名	変数の値を表示します。
.変数名=値	変数を設定し、設定された変数を表示します。
CPURESET	CPUをリセットします。(電源状態は変化しません。)

※変数については「■変数一覧表」参照

■ 「&SAVE」コマンドについて

環境(変数全体)を一括して待避・復元するためのコマンドです。
「&SAVE」を実行すると、「LOAD_BEGIN」から始まり、変数設定コマンド、「LOAD_END」までをテキストデータとして出力します。
このテキストデータをテキストドキュメントなどに設定データとして保存し、TELNETで送信すると、保存された設定が復元されます。
TELNET用のパスワードなど、いくつかの変数は保存されませんのでご注意ください。
設定データをテキストエディタで変更して利用することもできます。
なお、「&SAVE」には、エコーバックがありません。
変数設定コマンドでは、エラーがあっても無くても表示しません。
長いコマンドは分割されます。(最後にハイフンがあると、次に継続することを意味します。)
ファイルからのコマンドを実行するときは、「promptMode」を0または1とします。

■ プロンプトやコマンドについて

TELNET からアクセスしたときは、コマンド入力のプロンプトが表示されます。プロンプト表示の有無または表示形式は、コマンドで指定します。

「？」だけのコマンドにより、ヘルプとしてコマンドの一覧を表示します。どのコマンドでも最初に「&」をつけることによりエコーバックが無くなります。設定の取得、書き込みのときは、「promptMode」を 0 または 1 とします。

変数名	:	promptMode
値	:	0 (プロンプト表示無し)
	:	1 (「 > 」のプロンプト表示)
	:	2 (「 機器名 > 」のプロンプト表示)

2. ターミナルソフトによる設定

1) 本体前面のCOMポートと設定用PCのCOMポートをパソコン用クロスケーブル(D s u b 9ピンメス)で接続します。

2) ターミナルソフトを起動し、ポート設定をします。

通信速度 : 38400bps
データビット : 8ビット
ストップビット : 1ビット
パリティ : なし

3) 任意のキーを入力します。IDとパスワードが要求されます。

4) ユーザーID(デフォルト:admin)とパスワード(デフォルト:magic)を入力し、<Enter>キーで実行します。「OK」の応答があります。

5) 設定したいコマンドや変数などを入力し<Enter>キーで実行します。

6) 設定内容を有効化します。

「write」コマンドを入力し、<Enter>キーを押します。

<p>注意 電源制御可能な他のユーザーがログイン中の場合、当該方法にて新たにログインすることはできません。ただし、supervisor 権限ではログインすることが可能です。</p>

7) 設定終了後、ターミナルソフトを閉じます。

シリアル通信のコマンドは TELNET と共通です。ただし ID コマンドと PASS コマンドはご利用いただけません。

第6章 その他の制御

1. TELNET 接続による制御

本装置は TELNET サーバープログラムへ接続して、遠隔から電源制御および状態取得ができます。セキュリティ制御の設定がされている場合はその制限内での操作となります。

1-1 TELNET 接続による制御

- 1) 「スタート」から「ファイル名を指定して実行」を選択し、テキストボックスを開きます。「初期設定」で設定した IP アドレスを以下のように指定し、TELNET で本装置にログインします。

192.168.10.1 の場合
IP アドレス : 192.168.10.1
TELNET ポート番号 : 23

「telnet_192.168.10.1_23」
※アンダーバーはスペースを表します。

- 2) プログラムが起動し、下図のとおり表示されます。
「Noname」は機器名称の設定が反映されます。

```
220 RPC-M5CS (Noname) server ready
```

- 3) 任意のキーを入力します。ID とパスワードが要求されます。
- 4) ユーザー ID (デフォルト : admin) とパスワード (デフォルト : magic) を入力し、<Enter>キーで実行します。「OK」の応答があります。
- 5) 制御コマンドを入力して、<Enter>キーで実行します。

注意 電源制御可能な他のユーザーがログイン中の場合、当該方法にて新たにログインすることはできません。ただし、supervisor 権限ではログインすることが可能です。

■ 制御コマンド一覧表

制御コマンド	内 容																																
MPON	全アウトレットの電源出力開始																																
MPOF	全アウトレットの電源出力停止																																
MPOR	全アウトレットのリブート（電源リブート）																																
PONn	指定されたアウトレットの電源出力開始 n = 1 ~ 4																																
POFn	指定されたアウトレットの電源出力停止 n = 1 ~ 4																																
PORn	指定されたアウトレットのリブート（電源リブート） n = 1 ~ 4																																
PSRn	指定されたアウトレットの電源状態反転 n = 1 ~ 4																																
MPONV	全仮想アウトレットにマジックパケットを送信する。																																
PONVx	(xは1~8) debWakeupInterval 後にマジックパケットを送信する。																																
OLSn	<p>死活監視状態の表示 n = 1 ~ 4 n を省略すると全てのアウトレットを表示します。 コンマ区切りで表示。</p> <table> <tr> <td>Outlet No.</td> <td>アウトレット番号[1 ~ 4]</td> </tr> <tr> <td>Power</td> <td>電源状態[0 : Off 1 : On]</td> </tr> <tr> <td>Judge</td> <td>判定[1 : 正常 2 : 異常 3 : 回復中]</td> </tr> <tr> <td>Action Count</td> <td>Action 実行回数</td> </tr> <tr> <td>Last Ping1</td> <td>アドレス1の最後の応答[1 : 正常 2 : 異常]</td> </tr> <tr> <td>NoEchoCount1</td> <td>アドレス1の未応答回数</td> </tr> <tr> <td>NoEchoTime1</td> <td>アドレス1の応答時間 (ms) [0 : 未設定 1 : 応答時間 9999 : 未応答]</td> </tr> <tr> <td>Last Ping2</td> <td>アドレス2の最後の応答[1 : 正常 2 : 異常]</td> </tr> <tr> <td>NoEchoCount2</td> <td>アドレス2の未応答回数</td> </tr> <tr> <td>NoEchoTime2</td> <td>アドレス2の応答時間 (ms) [0 : 未設定 1 : 応答時間 9999 : 未応答]</td> </tr> <tr> <td>Last Ping3</td> <td>アドレス3の最後の応答[1 : 正常 2 : 異常]</td> </tr> <tr> <td>NoEchoCount3</td> <td>アドレス3の未応答回数</td> </tr> <tr> <td>NoEchoTime3</td> <td>アドレス3の応答時間 (ms) [0 : 未設定 1 : 応答時間 9999 : 未応答]</td> </tr> <tr> <td>Last Ping4</td> <td>アドレス4の最後の応答[1 : 正常 2 : 異常]</td> </tr> <tr> <td>NoEchoCount4</td> <td>アドレス4の未応答回数</td> </tr> <tr> <td>NoEchoTime4</td> <td>アドレス4の応答時間 (ms) [0 : 未設定 1 : 応答時間 9999 : 未応答]</td> </tr> </table>	Outlet No.	アウトレット番号[1 ~ 4]	Power	電源状態[0 : Off 1 : On]	Judge	判定[1 : 正常 2 : 異常 3 : 回復中]	Action Count	Action 実行回数	Last Ping1	アドレス1の最後の応答[1 : 正常 2 : 異常]	NoEchoCount1	アドレス1の未応答回数	NoEchoTime1	アドレス1の応答時間 (ms) [0 : 未設定 1 : 応答時間 9999 : 未応答]	Last Ping2	アドレス2の最後の応答[1 : 正常 2 : 異常]	NoEchoCount2	アドレス2の未応答回数	NoEchoTime2	アドレス2の応答時間 (ms) [0 : 未設定 1 : 応答時間 9999 : 未応答]	Last Ping3	アドレス3の最後の応答[1 : 正常 2 : 異常]	NoEchoCount3	アドレス3の未応答回数	NoEchoTime3	アドレス3の応答時間 (ms) [0 : 未設定 1 : 応答時間 9999 : 未応答]	Last Ping4	アドレス4の最後の応答[1 : 正常 2 : 異常]	NoEchoCount4	アドレス4の未応答回数	NoEchoTime4	アドレス4の応答時間 (ms) [0 : 未設定 1 : 応答時間 9999 : 未応答]
Outlet No.	アウトレット番号[1 ~ 4]																																
Power	電源状態[0 : Off 1 : On]																																
Judge	判定[1 : 正常 2 : 異常 3 : 回復中]																																
Action Count	Action 実行回数																																
Last Ping1	アドレス1の最後の応答[1 : 正常 2 : 異常]																																
NoEchoCount1	アドレス1の未応答回数																																
NoEchoTime1	アドレス1の応答時間 (ms) [0 : 未設定 1 : 応答時間 9999 : 未応答]																																
Last Ping2	アドレス2の最後の応答[1 : 正常 2 : 異常]																																
NoEchoCount2	アドレス2の未応答回数																																
NoEchoTime2	アドレス2の応答時間 (ms) [0 : 未設定 1 : 応答時間 9999 : 未応答]																																
Last Ping3	アドレス3の最後の応答[1 : 正常 2 : 異常]																																
NoEchoCount3	アドレス3の未応答回数																																
NoEchoTime3	アドレス3の応答時間 (ms) [0 : 未設定 1 : 応答時間 9999 : 未応答]																																
Last Ping4	アドレス4の最後の応答[1 : 正常 2 : 異常]																																
NoEchoCount4	アドレス4の未応答回数																																
NoEchoTime4	アドレス4の応答時間 (ms) [0 : 未設定 1 : 応答時間 9999 : 未応答]																																
VER	バージョンの表示																																

POS	全アウトレットの電源状態取得 応答：mmmm 左側からアウトレット1～4 m=0：OFF 1：ON
XPOS	全アウトレットの電源状態詳細の取得 応答：ABXXXX, ABXXXX, ABXXXX, ABXXXX、 左側からアウトレット1～4 A=0：OFF 1：ON B=0：OFF 遅延中 1：ON 遅延中 XXXX=Bのタイマ残り時間
ID	ユーザーIDの変更 1:Normal Admin 権限でのID名を変更します。 2:Supervisor Supervisor 権限でのID名を変更します。
PASS	パスワードの変更 新しいパスワードを2回入力します。 ※入力を失敗すると変更されません。 1:Normal Admin 権限のパスワードを変更します。 2:Supervisor Supervisor 権限のパスワードを変更します。
TELNET	変数「IpAdTelnetT」のアドレス、変数「remoteTelnetPortT」のポートにTELNETクライアントとして接続します。 DiscCharに設定した文字を入力すると切断終了する。 一度に受信するデータは、概ね40Kバイト以下でご利用ください。
DATE	年月日設定 例) DATE yy/mm/dd yy:年 mm:月 dd:日
TIME	現在時刻設定(秒は省略可) 例) TIME hh:mm:ss hh:時 mm:分 ss:秒
PING	ICMPを4回送信します。 例) PING [IPアドレス]
IPCONFIG	LANの通信設定を表示します。(例) IpAddress 192.168.10.1 SubnetMask 255.255.255.0 DefaultGateway 192.168.10.254 EthernetSpeed 100.0Mbps
CPURESET	CPUをリセットします。 コマンドを実行しても電源状態は変化しません。
PROMPT=n	0 (プロンプト表示無し) 1 (「>」のプロンプト表示) 2 (「 機器名 >」のプロンプト表示) *変数「promptMode」により接続直後のモードが決まります。
EXIT	回線切断 最初の文字がE, e, Q, qの場合はEXITと認識します。

※「XPOS」「VER」「PASS」などいくつかのコマンドはログイン時のみ有効です。

■ 応答コマンド

- 正常受付 : Command OK
- 不正なコマンド : Unrecognized command
- 前コマンドの処理中のため
コマンド実行せず : Last command is pending. Command failed.

2. シリアルからの制御

シリアルポートからコマンド入力での電源制御ができます。

1) 本体前面の COM ポートと設定用 PC の COM ポートをパソコン用クロスケーブル (D s u b 9 ピンメス) で接続します。

2) ターミナルソフトを起動し、ポート設定をします。

通信速度	:	38400bps
データビット	:	8ビット
ストップビット	:	1ビット
パリティ	:	なし

3) 任意のキーを入力します。ID とパスワードが要求されます。

4) ユーザー ID (デフォルト : admin) とパスワード (デフォルト : magic) を入力し、<Enter>キーで実行します。「OK」の応答があります。

5) 制御コマンドを入力し<Enter>キーで実行します。コマンドは「1.TELNET 接続による制御」と共通です。

※詳しくは「■ 制御コマンド一覧表」参照

注意	電源制御可能な他のユーザーがログイン中の場合、当該方法にて新たにログインすることはできません。ただし、supervisor 権限ではログインすることが可能です。
-----------	--

3. モデムからの制御

モデム経由で電源制御ができます。

- 1) 本装置 COM ポートを接続するモデムに合わせて設定します。
- 2) 本体前面のCOMポートとモデムをストレートケーブル（D s u b 9ピンメス）で接続します。
- 3) 遠隔地のモデムから接続します。
- 4) 接続されると ID とパスワードが要求されます。（TELNET と共通です。）
- 5) ユーザー ID（デフォルト：admin）とパスワード（デフォルト：magic）を入力します。コマンド入力状態になります。
- 6) 制御コマンドを入力し、<Enter>キーで実行します。
コマンドは「1.TELNET 接続による制御」と共通です。
※詳しくは「■ 制御コマンド一覧表」参照

注意	モデム制御ではストレートケーブルが必要です。 電源制御可能な他のユーザーがログイン中の場合、 当該方法にて新たにログインすることはできません。 ただし、supervisor 権限ではログインすることが可能です。
-----------	--

4. メールからの制御

メールを利用して電源制御ができます。

メールからのコマンドを利用するには、通信設定ならびにメール設定を正しく行う必要があります。

1. 本装置にメールを送信します。
 - 件名（タイトル）は特に必要ありません。
 - 本文 1 行目に「メール制御ユーザー名」を入力します。
 - 本文 2 行目に「メール制御パスワード」を入力します。
 - 本文 3 行目以降にコマンドを入力します。
 - コマンドを入力し改行を入れます。
 - コマンドの「LIST」と「&SAVE」は使えません。
 - 本文最終行に「QUIT」コマンドを入力することでログアウトします。
 - 「Q」または「E」の 1 文字だけでもログアウトします。
2. 数分後、本装置から結果を知らせるメールが届きます。

注意 メール制御ユーザー名とパスワードについては
「第 4 章 Web ブラウザでの設定、制御」の「メール設定」
をご確認ください。

電源制御可能な他のユーザーがログイン中の場合、
メール制御にて新たにログインすることはできません。

5. WEBコマンドからの制御

WEB からダイレクトコマンドで電源制御ができます。

WEB コマンドでの制御方法

WEB コマンドは主に電源制御のためのコマンドであり、設定の変更は出来ません。

cmd.htm の後に下記のフォーマットで記入します。

? command= [利用コマンド]

例) por3

http://192.168.10.1/cmd.htm? command=por3

変数名省略も可能です。

? command >?c

http://192.168.10.1/cmd.htm? c=por3

利用可能コマンド

利用可能ユーザーLv[ident control admin]

VER

POS

XPOS

OLS

OLSn

TEMP

TOS

TOSn

TSP

利用可能ユーザーLv[control admin]

PONn

POFn

PORn

MPON

MPOF

MPOR

PSRn

PONVn

MPONVn

<p>注意 HTTP 認証が「None」の場合、利用コマンド内に ID とパスワードのクエリ指定が必要です。 例) http://192.168.10.1/cmd.htm?i=admin&p=magic&c=por3 「Basic」または「Digest」の場合はブラウザ依存のポップアップ画面が表示されます。(コマンド内でのクエリ指定は不要です。)</p>

第7章 ログイン機能

1. ロギング機能の設定・表示

デバイスの監視やその他のイベントログを 1000 件記録します。1000 件を超えた場合は古いログから消去し、新しいログを記録します。記録されたログは、コマンドで表示・確認できます。

1) TELNET による設定と表示

記録モード・表示モードの設定及び記録されたログの表示は、それぞれのコマンドを入力し <Enter>キーで実行します。ログインして制御する方法で操作します。

① 記録モードの変数名とコマンド

変数名 : logMode
コマンド : .logMode

② 表示モードの変数名とコマンド

変数名 : logDisp
コマンド : .logDisp

③ 接続中の表示のみを変更するコマンド

(通信が終了すると「logDisp」の値に戻ります。)

コマンド : LOGDISP

■ ログ制御変数のビット構成

値は最下位を 0 ビットとし、31 ビットの構成になっています。

0 : 無、1 : 有

ビット

30 : 未使用
29 : 未使用
28 : 未使用
27 : 未使用
26 : 未使用
25 : スクリプト実行/失敗
24 : 未使用
23 : 未使用
22 : 未使用
21 : NTPアクセス
20 : シリアルログイン・ログアウト
19 : 未使用
18 : 温度状態変化
17 : 変数設定、write
16 : 未使用
15 : モデムログイン・ログアウト

ビット

14 : モデム接続・切断
13 : TELNET ログイン・ログアウト
12 : TELNET 接続・切断
11 : Web ログイン・ログアウト
10 : Web 接続
9 : メールログイン・ログアウト
8 : メール不正アクセス
7 : 未使用
6 : 未使用
5 : 電源障害等
4 : 電源制御コマンド
3 : 未使用
2 : ping 監視によるイベント
1 : ping 無応答
0 : ping 送信

■ 記録ログ一覧表

監視設定に基づくイベント（記録・表示のモード設定があります。）	
Ping	ping 送信
No Echo	ping 無応答
監視設定（Action）に基づくイベント	
No Action	処理なし
Outlet Reboot	電源リブート
Outlet On	電源 ON
Outlet Off	電源 OFF
スケジュールの場合は、「by Schedule」と表示されます。	
電源制御によるイベント	
MPON	全アウトレットの電源出力開始
MPOF	全アウトレットの電源出力停止
MPOR	全アウトレットの電源リブート
PON	指定されたアウトレットの電源出力開始
POF	指定されたアウトレットの電源出力停止
POR	指定されたアウトレットの電源リブート
アクセスによるイベント（接続先IDが表示されます。）	
--> Web	Web 接続
==> Web	Web ログイン
<== Web	Web ログアウト（切断）
<-- Web	ログインしないで切断
MAIL, TELNET の接続、ログインなどもこれに準じます	
NTPServerAccessError	NTP サーバー接続エラー (3回続けて失敗した場合)
NTP --- hh:mm:ss	NTP サーバー接続
mode に関係のない表示	
Mail Error	メール送信エラー

第8章

シャットダウン スクリプト

1. スクリプト仕様について

本装置はシャットダウンスクリプトを搭載しています。
この機能により、接続された機器の電源出力を停止できます。

1-1 スクリプトの基本動作

- ① アウトレットがOFF 命令を受け、シャットダウン遅延中に動作します。OFF 命令はコマンド温度監視、スケジュール、死活監視、電流監視より出されます。
- ② 指定のIP アドレス、ポートにTELNET 接続を行います。
- ③ 接続後、設定したスクリプトを実行します。
- ④ スクリプト実行後、以下の条件で電源をOFF します。
 - PING 応答確認有りの場合：シャットダウン遅延時間中、数秒間隔でPING 監視を行い応答が無くなるか、またはシャットダウン遅延時間がタイムアップした時
 - PING 応答確認無しの場合：シャットダウン遅延時間がタイムアップした時
(スクリプトの終了コードにより電源OFF 条件を定めることができます。)

1-2 設定

シャットダウンスクリプト設定は「第4章 Web ブラウザでの設定、制御」の「シャットダウンスクリプト設定」をご確認ください。

本機を TELNET 接続、シリアルポートからターミナルソフトにて下記の項目を設定してください。(アウトレット毎に以下の設定をします。)

IP アドレス	:	debOIShutdownAddr
Port 番号	:	debOIShutdownPort 0 を指定すると、23 と見なします。
スクリプト番号	:	debOIShutdownScript
スクリプトの有効/無効	:	debOIShutdownEnabled
サーバー名 (ID)	:	debOIShutdownName
パスワード	:	debOIShutdownPassword
PING 実行先	:	debOIShutdownPingAddr PING でシャットダウン終了を確認します。 IP アドレスまたはドメイン名を設定します。
PING 間隔	:	debOIShutdownPingInterval
PING 回数	:	debOIShutdownPingCount
PING 限度	:	debOIShutdownPingMax
電源 OFF 条件	:	debOIShutdownOffMax

1-3 ログ

- ① スクリプトの成功または失敗をログと変数に残します。
変数は debOIShutdownExit と debOIShutdownMsg
この変数の値は保存されます。

1-4 エラー処理

- ① 接続できない時
シャットダウン遅延時間中、数秒間隔でリトライします。
接続できなければ、終了コード 254 で終了します。
- ② 切断された時
接続後に切断されたときは、終了コード 253 で終了します。

1-5 テキスト仕様

① 条件

- テキストサイズは、2Kbyte までです。
- テキスト行数は 250 行までです。
- テキストの第 1 行は、TELNET とします。
- 行の先頭やパラメータの区切りに任意個のタブや空白を入れてもかまいません。
- スクリプト関数は大文字でも小文字でも可能です。
- 2 バイト文字にも対応しています。

② スクリプト関数詳細

文字列	:	二重引用符 " で囲みます。 CR コードは $\backslash r$ LF コードは $\backslash n$ で表します。 また、1 個の \backslash は $\backslash \backslash$ 1 個の " は $\backslash "$ で表します。 制御コード等は $\backslash xnn$ nn は 2 桁の 16 進数で表します。 (長さは最大 63 バイト)
timeout 時間	:	単位 (秒) スクリプトタイムアウト 最大 1023 (秒) (スクリプト例は 600 秒) 時間が来たら強制的にスクリプトを終了します。 (終了コードは 255)
delay 時間	:	単位 100 ミリ (秒) 、一時停止、最大 1023
goto ラベル	:	指定ラベルに飛びます。
ラベル	:	ラベルは 1~99 行の残りにはコメントしか書くことはできません。
exit 終了コード	:	スクリプト終了 終了コードは 0~255。省略は 0 変数 debOIShutdownExit に設定されます。
send 文字列	:	文字列を送信します。
recv	:	データを受信バッファに受信します。
recv 時間 goto ラベル	:	データを受信バッファに受信します。時間単位 (秒) 時間内に受信できなければラベルに飛びます。
recv 時間 exit 終了コード	:	
if 文字列 goto ラベル	:	受信バッファに文字列があればラベルに飛びます。
if 文字列 exit 終了コード	:	受信バッファに文字列があれば終了します。
unless 文字列 goto ラベル	:	受信バッファに文字列が無ければラベルに飛びます。
unless 文字列 exit 終了コード	:	
/	:	コメント 各文の終わりにも / を置いてコメントを書くことができます。
set 文字列	:	メッセージ変数 debOIShutdownMsg に文字列を入れます。
sendname	:	サーバー名 (ID) を CR コードつきで送信します。
sendpassword	:	パスワードを CR コードつきで送信します。

③ スクリプト例 (Windows 用)

```
TELNET
//強制タイムアウト時間 600 秒
timeout 600
//ユーザーログイン、パスワード確認
1:
recv 30 exit 91
unless "login:" goto 1
sendname
2:
recv 30 exit 92
unless "password:" goto 2
sendpassword
3:
recv
unless ">" goto 3

//シャットダウンコマンド送信
send "shutdown /s¥r"
4:
recv
unless ">" goto 4
send "exit¥r"
exit
```

注意

シャットダウンされる側のパソコンは、TELNET サーバー機能が有効になっている必要があります。
また、ログインは管理者権限で行う必要があります。

④ スクリプト入力

SCRIPT コマンドで始めます。

SCRIPT 番号

番号は 1~4

ENDSCRIPT コマンドで終わります。

変数 script1~script4 に格納します。コメントや余分のタブ・空白は格納しません。

エラーがある場合は、エラーを表示し、格納しません。

1-6 PING 確認について

スクリプト実行が終了すると、終了コードが何であってもPING 確認を実行します。

PING 確認では、PING 実行先が指定されていれば、指定間隔でPING を送信します。

PING 回数だけ連続して未応答の場合、PING 確認を終了します。

PING 限度だけ送信すると、PING 確認を終了します。

PING 実行先が指定されていなければ、すぐにPING 確認を終了します。

PING 確認を終了すると、debOIShutdownTimeの遅延後にアウトレットの電源をOFF します。

第9章 SNMP について

1. SNMPについて

本装置はSNMPエージェント機能を装備しています。SNMPマネージャーを利用して、ネットワークシステムの電源管理を行うことができます。
SNMPでは電源制御は行えません。

2. 機器設定

本装置をTELNET接続にて下記の項目を設定してください。「その他の制御」を参照してください。

- ① SNMPのSET、GET有効化
変数 : snmpGetSetEnabled
デフォルト : 0
(0:無効 1:有効)

- ② SNMP TRAPの有効化
変数 : snmpTrapEnabled
デフォルト : 0
(0:無効 1:有効)

- ③ SNMP不正アクセス時のTRAP通知
変数 : snmpAuthenTrapEnabled
デフォルト : 2
(1:有効 2:無効)

- ④ TRAP送信回数
変数 : snmpTrapSendN
デフォルト : 1
(1~9)

- ⑤ TRAP送信間隔(秒)
変数 : snmpTrapSendInterval
デフォルト : 1
(1~9)

- ⑥ TRAP送信先アドレス
変数 : snmpTrapAddr
デフォルト : 0.0.0.0,0.0.0.0,0.0.0.0,0.0.0.0,
0.0.0.0,0.0.0.0,0.0.0.0,0.0.0.0
(8箇所)

- ⑦ SNMP用フィルターの有効化
 変数 : snmpFilterEnabled
 デフォルト : 0
 (0:無効 1:有効)
- ⑧ フィルター有効時許可するアドレス
 変数 : snmpFilterAddr
 デフォルト : 0.0.0.0,0.0.0.0,0.0.0.0,0.0.0.0,
 0.0.0.0,0.0.0.0,0.0.0.0,0.0.0.0,
 0.0.0.0,0.0.0.0
 (10箇所)
- ⑨ フィルター有効時のMask
 変数 : snmpFilterEnabled
 デフォルト : 255.255.255.255,255.255.255.255,
 255.255.255.255,255.255.255.255,
 255.255.255.255,255.255.255.255,
 255.255.255.255,255.255.255.255,
 255.255.255.255,255.255.255.255
 (10箇所)
- ⑩ SNMP GET コミュニティ名
 変数 : getCommunity
 デフォルト : Public
- ⑪ SNMP SET コミュニティ名
 変数 : setCommunity
 デフォルト : Public
- ⑫ SNMP TRAP コミュニティ名
 変数 : trapCommunity
 デフォルト : Public

3. MIBについて

本機を管理するためのプライベートMIBを準備しています。
当社ホームページ (<http://www.meikyo.co.jp/download/>) よりMEIKYO.MIBをダウンロードし
ご利用ください。

プライベートMIBファイルをNMSにロード・コンパイルすることにより、本機の管理をNMS上で行うことができます。

<p>注意 MIBのロード・コンパイル使用方法についての詳細は、ご利用される NMSのマニュアルを参照してください。</p>
--

第10章
ネットワーク
稼動監視

1. 機器設定

本装置から UDP のパケットを送出し、電源状態を通知することができます。

「RPC -EYE v3」(オプション 有償ソフトウェア) を利用すれば、各機器からのパケットを受信し一元管理することができます。

下記の変数を設定してください。(①～④は WEB 通信詳細画面により設定できます)

① 状態通知機能

変数 : msrpEnabled
デフォルト : 0
(0:無効 1:有効)

RPC-EYE v3 を使用するパソコンのアドレスを設定します。

② 送信先アドレス

変数 : ipAdCenter
デフォルト : 0.0.0.0,0.0.0.0,0.0.0.0
(3箇所)

RPC-EYE v3 を使用するパソコンのポート番号を設定します。

③ ポート番号

変数 : centerPort
デフォルト : 5000

情報を通知する間隔を設定します。

④ 定期通知の送信間隔 (秒)

変数 : centerSendTimer
デフォルト : 300

電源変化時は、定期通知間隔を待たず直ちに通知します。その時の通知回数を設定します。

⑤ 電源変化時の通知回数

変数 : centerChangeSendCount
デフォルト : 3

電源変化時の通知の2回目以降の通知間隔を設定します。

⑥ 電源変化時の通知間隔 (秒)

変数 : centerChangeSendTimer
デフォルト : 10

2. RPC-EYE v3の利用

RPC-EYE v3 は、RPC シリーズからの送信情報を利用して、各拠点のネットワークの稼動状態をリアルタイムで監視するネットワーク稼動監視ソフトです。

以下の特長があります。

- 死活監視 温度状態 電源状態の表示と監視
- アイコンによるビジュアルな状態表示
- リアルタイムに見れる詳細な情報ビューア
- 温度状態のグラフによる表示
- 受信情報のデータ保存(CSV 形式)
- 状態変化時に E-MAIL 又は音による通知機能
- 個別の機器への接続機能(HTML or TELNET)
- 管理する機器は理論上 1000 台まで可能です。
- 1 本のソフトで PC 3 台まで利用できます。

詳細、購入方法等は下記のアドレスで確認ください。

<http://www.meikyo.co.jp/download/>

設定前の確認

設定用 PC と本装置を LAN で確実に接続してください。

RPC -EYE v3 を PC にインストールしてください。

RPC -EYE v3 は WindowsVista/7 対応ソフトです。

RPC -EYE v3 の設定、利用方法は、RPC -EYE v3 説明書 (PDF ファイル) をご覧下さい。

第11章 仕様一覧

■ 変数一覧表

変数名	初期値	内容	備考
ipAdEntAddr	192.168.10.1	IP アドレス	
ifPhysAddress	(機器毎)	MAC アドレス (ReadOnly)	
serialNo		未使用	
sysName	Noname	機器名称	全角 9 文字 半角 19 文字以内
snmpGetSetEnabled	0	SNMP の SET、GET の有効化	0:無効 1:有効
snmpTrapEnabled	0	SNMP TRAP の有効化	0:無効 1:有効
snmpAuthenTrapEnabled	2	SNMP 不正アクセス時の TRAP 通知	1:有効 2:無効
snmpTrapSendN	1	TRAP 送信回数	1~9
snmpTrapSendInterval	1	TRAP 送信間隔(秒)	1~9
snmpTrapAddr		TRAP 送信先アドレス	“,” 区切りで 8 箇所まで
snmpFilterEnabled	0	SNMP 用フィルタの有効化	0:無効 1:有効
snmpFilterAddr		フィルタ有効時許可するアドレス	“,” 区切りで 10 箇所まで
snmpFilterMask	255.255.255.255, 255.255.255.255, 255.255.255.255, 255.255.255.255, 255.255.255.255, 255.255.255.255, 255.255.255.255, 255.255.255.255, 255.255.255.255, 255.255.255.255	フィルタ有効時の Mask	10 箇所
getCommunity	public	SNMP GET コミュニティ名	半角 20 文字以内
setCommunity	public	SNMP SET コミュニティ名	半角 20 文字以内
trapCommunity	public	SNMP TRAP コミュニティ名	半角 20 文字以内
sysDescr	*1 文字列	(ReadOnly)	
sysContact	inforpc@meikyo.co.jp	連絡先	
sysLocation	Nowhere	設置場所	全角 31 文字 半角 63 文字以内
ifDescr	*2 文字列	(ReadOnly)	
ipAdEntNetMask	255.255.255.0	ネットマスク	
ipRouteDest		デフォルトゲートウェイ	
netBootpRetry	0	BOOTP リトライ回数	
netRarpRetry	0	RARP リトライ回数	
telnetEnabled	0	TELNET の有効化	0:無効 1:有効
telnetPort	23	TELNET のポート番号	
rshdEnabled	0	リモートシェルリモートシェル設定	0:無効 1:有効
rshdPort	514	リモートシェル(rsh)に使用する着信ポート	
rshErrPort	1000	リモートシェル(rsh)に使用するエラーポート	
utilityPort	9000	UTY のポート番号	
fileLoadPort	9200	HTML ファイルをロードするポート	
httpEnabled	1	HTTP の有効化	0:無効 1:有効

httpPort	80	HTTP のポート番号	
httpRefreshInterval	30	HTTP 自動更新間隔(秒)	
httpRefreshEnabled	0	HTTP 自動更新の有効化	0:無効 1:有効
httpCommandEnabled	0	HTTP コマンドの有効化	0:無効 1:有効
dhcpEnabled	0	DHCP の有効化	0:無効 1:有効
ipFilterEnabled	0	IP フィルタの有効化	0:無効 1:有効
ipFilterAddr	192.168.10.0	IP フィルタアドレス	"/" 区切りで 10 箇所まで
ipFilterMask	255.255.255.0, 255.255.255.255, 255.255.255.255, 255.255.255.255, 255.255.255.255, 255.255.255.255, 255.255.255.255, 255.255.255.255, 255.255.255.255, 255.255.255.255	IP フィルタマスク	10 箇所
model	RPC-M5CS	モデル名(ReadOnly)	
com1Speed	3	シリアル通信速度	1:9600Bps 2:19200Bps 3:38400Bps
com1DataBits	8	シリアル通信ビット	7,8
com1StopBits	1	シリアル通信ストップビット	1,2
com1Parity	0	シリアル通信パリティ	0:無 1:奇 2:偶
version		バージョン表示(ReadOnly)	
debTcpInactiveTimer	10	TELNET 通信時の無通信タイマ(分)	
autoLogoutEnabled	1	自動ログアウト監視の有効化	0:無効 1:有効
userLoginTimeout	600	HTTP 自動ログアウト時間	30~30000
debMasterRebootTime	10	全アウトレットリブート時の OFF 時間(秒)	8~3600
debOIMaster	1,2,3,4	各アウトレットの連動設定	左→右 1→4 アウトレット デフォルト時、連動無し
debOIPowerOnTime	1,2,3,4	各アウトレットの ON 時間	左→右 1→4 アウトレット -1~3600
debOIPowerOnSTime	1,2,3,4	本体起動時に適用する電源出力 ON 遅延時間(単位:秒)	左→右 1→4 アウトレット -1~3600
debOIPowerOnTTime	0,0,0,0	スケジュールに適用する電源出力 ON 遅延時間(単位:秒)	左→右 1→4 アウトレット 0~3600
debOIShutdownTime	0,0,0,0	各アウトレットの OFF 時間	左→右 1→4 アウトレット -1~3600
debOIRebootTime	10,10,10,10	各アウトレットの REBOOT 時間	左→右 1→4 アウトレット 8~3600
debOIWdogAddr		監視先 IP アドレス	左→右 1→4 アウトレット "/" 区切りで 4 箇所まで
debOIWdogSendMax	10,10,10,10	PING 監視 送信回数	左→右 1→4 アウトレット 1~100
debOIWdogNoResMax	10,10,10,10	PING 監視 無応答回数	左→右 1→4 アウトレット 1~100

debOIWdogActCond	1,1,1,1	PING 監視 監視対象数	左→右 1→4 アウトレット 1~4
debOIWdogAction	0,0,0,0	PING 監視 Action	左→右 1→4 アウトレット 0:無動作 1:ログのみ 2:リポート
debOIWdogActCount	0,0,0,0	PING 監視 Action 回数(ReadOnly)	左→右 1→4 アウトレット
debOIWdogStatus	0,0,0,0	PING 監視判断(ReadOnly)	左→右 1→4 アウトレット 0:未設定 1:正常 2:異常 3:回復中
debOIRebootCount	1,1,1,1	PING 監視 再 Reboot 回数	左→右 1→4 アウトレット 1~100
debOIRebootInterval	1,1,1,1	PING 監視 再 Reboot 間隔(分)	左→右 1→4 アウトレット 1~60
debOIActionLimit	0,0,0,0	PING 監視 異常時の 1 時間ごとに繰り返すリポート回数	左→右 1→4 アウトレット 0:無制限
debOIRecvErrorMax	0,0,0,0	PING 監視 メールサーバへの連続アクセス異常回数	左→右 1→4 アウトレット 0:機能無効
debOIWdogLastStatus	0,0,0,0,0,0,0, 0,0,0,0,0,0,0	PING 監視 最終応答(ReadOnly)	左→右 1→4 アウトレット 0:未設定 1:正常 2:異常 "," 区切りでアウトレット×4
debOIWdogDefGateway	0,0,0,0,0,0,0, 0,0,0,0,0,0,0	PING 監視 デフォルトゲートウェイ	左→右 1→4 アウトレット 0:無効 1:有効 "," 区切りでアウトレット×4
debOINoResCount	0,0,0,0,0,0,0, 0,0,0,0,0,0,0	PING 監視 無応答回数(ReadOnly)	左→右 1→4 アウトレット "," 区切りでアウトレット×4
debOIRespTime	0,0,0,0,0,0,0, 0,0,0,0,0,0,0	PING 監視 IP アドレスからの応答時間(ms)	左→右 1→4 アウトレット 0:未設定 1:PING 応答の最小値 "," 区切りでアウトレット×4
debOIActionMax	12	PING 監視 異常回数	
debOINoEchoInterval	5	PING 監視 無応答検出時間(秒)	5~60
debOIPingInterval	1	PING 監視 送信間隔(分)	1~60
pingInterval2	0,0,0,0	PING 監視 送信間隔個毎(分)	左→右 1→4 アウトレット 0~60 0:未設定
debOIName	Outlet1,Outlet2, Outlet3,Outlet4	アウトレット名	全角 10 文字 半角 20 文字以内
debOINameV		仮想アウトレットの名称	全角 10 文字 半角 20 文字以内
debOIPowerOnTimeV	0,0,0,0,0,0,0	仮想アウトレット用の ON 遅延時間	左→右 1→8 アウトレット -1~3600
errorN	0	シャットダウンスクリプト中の検出エラー数	
debOIShutdownAddr		シャットダウンスクリプトの IP アドレス	
debOIShutdownPort	0,0,0,0	シャットダウンスクリプトの Port 番号	
debOIShutdownScript	1,1,1,1	シャットダウンスクリプトのスクリプト番号	
debOIShutdownEnabled	0,0,0,0	シャットダウンスクリプトの有効化	0:無効 1:有効
debOIShutdownName		シャットダウンスクリプトのサーバー名(ID)	半角 16 字以内
debOIShutdownPassword		シャットダウンスクリプトのパスワード	半角 16 字以内

ipAdDnsServer		DNS サーバーアドレス	
mailUserName		メール ユーザー名	半角 63 文字以内
mailPassword		メール パスワード	半角 40 文字以内
mailCommandLoginName		メール コマンドユーザー名	半角 63 文字以内
mailCommandPassword		メール コマンドパスワード	半角 63 文字以内
mailLastEvent		最新のイベント内容を保管	
mailContent	sysName, sysLocation, ipAdEntAddr, ifPhysAddress, mailExtraMsg1, mailLastEvent	通知メールの内容	最大 8 パターンまで SysName/sysLocation/ipAdEntAddr, IfPhysAddress/mailLastEvent/mailExtraMsg1 mailExtraMsg2/mailExtraMsg3"
mailAddr		メールアドレス	
mailExtAddr		送信先メールアドレス	8 アドレス
mailInfoFlag	0.0.0.0.0.0 0.0.0.0.0.0 0.0.0.0.0.0 0.0.0.0.0.0 0.0.0.0.0.0 0.0.0.0.0.0 0.0.0.0.0.0 0.0.0.0.0.0 0.0.0.0.0.0 0.0.0.0.0.0 0.0.0.0.0.0 0.0.0.0.0.0 0.0.0.0.0.0 0.0.0.0.0.0 0.0.0.0.0.0 0.0.0.0.0.0 0.0.0.0.0.0	PING 監視 メール送信有効化 コンマ区切りで表示。 イベント テスト/宛先タイプ TO 8 アドレス分 イベント テスト/宛先タイプ CC 8 アドレス分 イベント テスト/宛先タイプ BCC 8 アドレス分 イベント PING/宛先タイプ TO 8 アドレス分 イベント PING/宛先タイプ CC 8 アドレス分 イベント PING/宛先タイプ BCC 8 アドレス分 イベント 温度/宛先タイプ TO 8 アドレス分 イベント 温度/宛先タイプ CC 8 アドレス分 イベント 温度/宛先タイプ BCC 8 アドレス分 イベント 定時メール/宛先タイプ TO 8 アドレス分 イベント 定時メール/宛先タイプ CC 8 アドレス分 イベント 定時メール/宛先タイプ BCC 8 アドレス分 イベント ハートビート/宛先タイプ TO 8 アドレス分 イベント ハートビート/宛先タイプ CC 8 アドレス分 イベント ハートビート/宛先タイプ BCC 8 アドレス分	0:無効 1:有効
mailCommandEnabled	0	メールコマンドの有効化	0:無効 1:有効
mailCommandAddrEnabled	1	メールコマンドアドレスの有効化	(未使用)
mailRecvProtocol	1	メール受信プロトコル	1:POP3 2:IMAP
mailLogoutTime	10	メールログアウト時間(分)	1~60
mailCheckInterval	3	メールチェック間隔(分)	1~60
mailApopEnabled	0	APOPの有効化	0:無効 1:有効
mailSmtplAuthEnabled	0	SMTPAUTHの有効化	0:無効 1:有効
mailSmtplAuthMask	7	SMTPAUTHのMask	
mailImapAuthMask	6	IMAP AUTHのMask	
mailRetryCount	3	メールリトライ回数	1~99
mailRetryInterval	10	メールリトライ間隔(秒)	1~999
mailRecvPort	110	メール受信ポート	0~65535
mailSendPort	25	メール送信ポート	0~65535

mailExtraMsg	¥¥n	通知メール ユーザー定義文字列	最大3パターンまで 全角21文字 半角40文字以内 (¥¥nは改行コードの意味)
promptMode	2	TELNET プロンプトモード	0:無し 1:「>」の表示 2:「機器名>」の表示
modemEnabled	0	モデムの有効化	0:無効 1:有効
modemTimeout	10	モデムタイムアウト時間(分)	
logMode	0111 1111 1111 1111 1111 1111 1111 0100	ログ記録モード(31ビット)	0:無効 1:有効
logDisp	0111 1111 1111 1111 1111 1111 1111 1111	ログ表示モード(31ビット)	0:無効 1:有効
mailLogCount	0	メールで送信する更新されたログの数	0:無効 1~20:閾値
mailLogDisp	0111 1111 1111 1111 1111 1111 1111 1111	メールログ表示モード(31ビット)	0:無効 1:有効
ipAdNtpServer		NTP サーバーの IP アドレス	
ntpInterval	6	NTP サーバーへのアクセス間隔(×10分)	
msrpEnabled	0	状態通知の有効化	0:無効 1:有効
ipAdCenter		MSRP/sysLog 送信先 IP アドレス	8箇所まで
centerPort	5000,5000,5000	MSRP/sysLog 送信先ポート番号	
terminalId	0	監視情報用 ID 番号	0~9999
centerSendTimer	300	監視情報送信間隔(秒)	
centerChangeSendTimer	10	状態変化時の送信間隔(×100ミリ秒)	
centerChangeSendCount	3	状態変化時の送信回数	
ipAdTelnetT		TELNET からの TELNET 中継先アドレス	
ipAdTelnetU		UTY からの TELNET 中継アドレス	
remoteTelnetPortT	23	TELNET からの TELNET 中継先ポート	
remoteTelnetPortU	23	UTY からの TELNET 中継ポート	
remoteTelnetMyPort	5000	TELNET 中継時の発信ポートベース番号	
discChar		中継中の通信切断キャラクタ	
debWakeupPhysAddr	...	WOL 設定	"/" 区切りで4箇所まで
debWakeupMaxCount	2	マジックパケット送信回数	
debWakeupInterval	15	マジックパケット送信間隔(秒)	
debWakeupPhysAddrV	仮想アウトレット用の WOL 設定	"/" 区切りで8箇所まで
ipAdMailRecvServer		メール受信サーバーアドレス	
ipAdMailSendServer		メール送信サーバーアドレス	
etherSpeed	2	接続速度	0:接続していない 1:10.0Mbps 2:100.0Mbps
pingPktSize	16	PING パケットのデータ長	16~1472
resetCause		リセット原因表示	
recvErrorCount	0	PING 監視 メールサーバへのアクセスエラー回数	0:表示のみ
ledBlinkEnabled	1	LED の点滅の有効化	0:無効 1:有効
broadGroup	0	一斉電源制御の有効化	0:無効 1~8:グループ

broadPhysAddr		一斉電源制御側 MAC アドレス	
searchEnabled	1	RPC サーチャソフトからの受信設定	0:無効, 1: 有効
versionupEnabled	3	バージョンアップの有効化	0: 無効 1:ローカル更新のみ 2: オンライン更新のみ、3: 有効
revision	01	ファームウェアバージョンアップ機能コード	
httpCommandReturn		ダイレクト WEB コマンド実行後の戻り用 URL ("http://"を省いて記述)	
httpCommandNo	0	ダイレクト WEB 実行後に表示されるページの設定	0:コマンド実行結果を表示 1:元の画面に戻る 2:httpCommandReturn で指定したアドレス にジャンプ
httpCommandSet	1,1,1,1,1,1,1, 1,1,1,1,1,1,1	ダイレクト WEB 実行後に表示されるページの 表示制限設定	
httpScreen	1,1,1,1,1,1,1, 1,1,1,1,1,1,1, 1,1,1,1,1,1,1, 1,1,1,1,1,1,1	ブラウザに表示される画面/項目の表示設定	0:非表示 1:表示
httpPageType	0	PC、スマートフォン等端末の種類にあわせ て画面を切り替えるための設定	
httpPageStart	0	ログイン後に最初に表示されるページ	0:簡易情報表示 1:監視状態表示 2: イベントログ表示 3:電源制御
userHtmlEnabled	0	ユーザーHTML の有効化	0:無効 1:有効
userHtmlPort	8080	ユーザーHTML に使用する着信ポート	
userHtmlLen	0	ユーザーHTML のファイルサイズ	8189 以下
userHtmlMode	0	html 内で設定保存できる数字変数	
userHtmlFile		ユーザーが利用する任意変数	全角 127 文字 半角 255 文字以内
userHtmlBtnSizeW	120	ユーザーHTML に配置するボタンの幅	999 以下
userHtmlBtnSizeH	60	ユーザーHTML に配置するボタンの高さ	999 以下
userHtmlInterval	10	ユーザーHTML の自動更新間隔	
userHtmlText		ユーザーhtml 内でコメント等を記入する変数	全角 127 文字 半角 255 文字以内
userHtmlAddress		ユーザーが利用する任意変数	全角 31 文字 半角 63 文字以内
userHtmlOnBtnName	ON	配置する電源 ON ボタンの名称	全角 9 文字 半角 16 文字以内
userHtmlOffBtnName	OFF	配置する電源 OFF ボタンの名称	全角 9 文字 半角 16 文字以内
userHtmlRebootBtnName	REBOOT	配置する電源 REBOOT ボタンの名称	全角 9 文字 半角 16 文字以内
userHtmlReverseBtnName	PUSH	配置する電源 REVERSE ボタンの名称	全角 9 文字 半角 16 文字以内
userHtmlSet	1,1,1,1,1,1,1, 1,1,1,1,1,1,1	ダイアログボックス表示の有無	0:表示しない 1:表示する
userHtmlCode	0	ダイアログボックスの言語を選択する	0:表示しない 1:日本語で表示 2:英語で表示
userHtmlRefreshEnabled	1,1,1,1,1,1,1, 1,1,1,1,1,1,1	ボタンごとに自動更新を行なうかを設定する	0:行なわない 1:行なう
userHtmlRefreshContent	10	ボタンごとの自動更新を行なう場合の更新間隔	単位: 秒
httpAuthMode	2	HTTP 認証モード	0:None 1: Basic 認証、2:Digest 認証
realmName	RPC-M5CS	認証領域 (realm) 名	半角英数字 63 文字以内
nonceTime	180	nonce の有効時間 (秒)	30~30000
hbEnabled	0	ハートビートの有効化	0:無効 1:有効

hbIpAddr		ハートビートの対象 IP アドレス	0 は無視
hbPort	9100	ハートビートの待ち受けポート	
hbPcPort	9100	ハートビートの送信側ポート確認	
hbInterval	8	ハートビートのパケットを受ける間隔(秒)	1~99
hbRebootTime	30	ハートビートのリブート時間(秒)	1~99
hbTimeoutMax	3	ハートビートの動作を行うカウント	1~99
hbActionMax	3	ハートビートのリブート動作カウント	1~99
hbAction	0,0,0	ハートビートのアウトレット毎の動作	0:無効 1:ON 2:ON 追従 3:OFF 4:OFF 追従 5:リブート
hbTimeoutCount	0	タイムアウトの累積回数(ReadOnly)	
hbActionCount	0,0,0	アウトレット毎の動作を実行した回数(ReadOnly)	
hbStat	0	ハートビート状態(ReadOnly)	0:待機中、1:パケットを受信
hbCallingIpAddr		最後にパケットを受信した IP アドレス(ReadOnly)	

*1 文字列 Meikyo Remote Power Controller, RPC-M5CS Ver. 1.00A

*2 文字列 Meikyo 100BASE-TX Driver

■ ログ一覧表

内 容	情 報	TELNET などの LOG
ログ開始		Log Start
PING 送信	outlet no. Ipaddr no.	ping
PING 無応答	outlet no. Ipaddr no.	No Echo
死活判定(NoAction)	アウトレット no.	No Action
死活判定(REBOOT)	アウトレット no.	Outlet Reboot
死活判定(アウトレット ON)	アウトレット no.	Outlet On
死活判定(アウトレット OFF)	アウトレット no.	Outlet Off
正常/回復中	アウトレット no.	Outlet Recovered
スケジュール(REBOOT)	アウトレット no.	Outlet Reboot by Schedule
スケジュール(アウトレット ON)	アウトレット no.	Outlet On by Schedule
スケジュール(アウトレット OFF)	アウトレット no.	Outlet Off by Schedule
全アウトレット ON	アウトレット ALL ID (ID は接続者)	MPON
全アウトレット OFF	アウトレット ALL ID (ID は接続者)	MPOF
全アウトレット REBOOT	アウトレット ALL ID (ID は接続者)	MPOR
アウトレット ON	アウトレット no.ID (ID は接続者)	PON
アウトレット OFF	アウトレット no.ID (ID は接続者)	POF
アウトレット REBOOT	アウトレット no.ID (ID は接続者)	POR
メールログイン要求	Ipaddr no.(no.は設定番号)	→Mail
メールログイン	Ipaddr no.(no.は設定番号)	⇒Mail
メールログアウト	Ipaddr no.(no.は設定番号)	⇐Mail
TELNET 接続	IPaddr	→Telnet
TELNET ログインせず切断	IPaddr	←Telnet
TELNET 多重超接続	IPaddr	>>xTelnet
TELNET ログイン	IPaddr	⇒Telnet
TELNET ログアウト	IPaddr	⇐Telnet
Web 接続		→Web
Web ログイン		⇒Web
Web ログアウト		⇐Web
設定変更	[変数名] ID (ID は接続者)	variable set (xxxxx)
設定書込(WRITE)	ID (ID は接続者)	write to FROM
温度状態変化	正常、℃	Temperature Normal
温度状態変化	上限警報、℃	Temperature High Alarm
温度状態変化	下限注意、℃	Temperature Low Warning
温度状態変化	下限警報、℃	Temperature Low Alarm
NTP サーバー接続	hour minute second	NTP — hh:mm:ss
NTP サーバー接続エラー		NTP Server Access Error
メールエラー		Mail Error

■ 制御コマンド一覧表

制御コマンド	内 容
MPON	全アウトレットの電源出力開始
MPOF	全アウトレットの電源出力停止
MPOR	全アウトレットのリポート（電源リポート）
PONn	指定されたアウトレットの電源出力開始 n=1~4
POFn	指定されたアウトレットの電源出力停止 n=1~4
PORn	指定されたアウトレットのリポート（電源リポート） n=1~4
PSRn	指定されたアウトレットの電源状態反転 n=1~4
MPONV	全仮想アウトレットにマジックパケットを送信する。
PONVx	(xは 1~8) debWakeupInterval 後にマジックパケットを送信する。
OLSn	<p>死活監視状態の表示 n=1~4 nを省略すると全てのアウトレットを表示します。 コマ区切りで表示。</p> <p>Outlet No. アウトレット番号[1~4] Power 電源状態[0:Off 1:On] Judge 判定[1:正常 2:異常 3:回復中] Action Count Action 実行回数 Last Ping1 アドレス1の最後の応答[1:正常 2:異常] NoEchoCount1 アドレス1の未応答回数 NoEchoTime1 アドレス1の応答時間 (ms) [0:未設定 1:応答時間 9999:未応答] Last Ping2 アドレス2の最後の応答[1:正常 2:異常] NoEchoCount2 アドレス2の未応答回数 NoEchoTime2 アドレス2の応答時間 (ms) [0:未設定 1:応答時間 9999:未応答] Last Ping3 アドレス3の最後の応答[1:正常 2:異常] NoEchoCount3 アドレス3の未応答回数 NoEchoTime3 アドレス3の応答時間 (ms) [0:未設定 1:応答時間 9999:未応答] Last Ping4 アドレス4の最後の応答[1:正常 2:異常] NoEchoCount4 アドレス4の未応答回数 NoEchoTime4 アドレス4の応答時間 (ms) [0:未設定 1:応答時間 9999:未応答]</p>
VER	バージョンの表示
POS	<p>全アウトレットの電源状態取得 応答: mmmm 左側からアウトレット1~4 m=0:OFF 1:ON</p>

XPOS	全アウトレットの電源状態詳細の取得 応答：ABXXXX, ABXXXX, ABXXXX, ABXXXX, 左側からアウトレット1~4 A=0：OFF 1：ON B=0：OFF 遅延中 1：ON 遅延中 XXXX=Bのタイマ残り時間
ID	ユーザーIDの変更 1:Normal Admin 権限でのID名を変更します。 2:Supervisor Supervisor 権限でのID名を変更します。
PASS	パスワードの変更 新しいパスワードを2回入力します。 ※入力を失敗すると変更されません。 1:Normal Admin 権限のパスワードを変更します。 2:Supervisor Supervisor 権限のパスワードを変更します。
TELNET	変数「IpAdTelnetT」のアドレス、変数「remoteTelnetPortT」のポートにTELNETクライアントとして接続します。 DiscCharに設定した文字を入力すると切断終了する。 一度に受信するデータは、概ね40Kバイト以下でご利用ください。
DATE	年月日設定 例) DATE yy/mm/dd yy:年 mm:月 dd:日
TIME	現在時刻設定(秒は省略可) 例) TIME hh:mm:ss hh:時 mm:分 ss:秒
PING	I CMPを4回送信します。 例) PING [IPアドレス]
IPCONFIG	LANの通信設定を表示します。(例) IpAddress 192.168.10.1 SubnetMask 255.255.255.0 DefaultGateway 192.168.10.254 EthernetSpeed 100.0Mbps
CPURESET	CPUをリセットします。 コマンドを実行しても電源状態は変化しません。
PROMPT=n	0 (プロンプト表示無し) 1 (「>」のプロンプト表示) 2 (「 機器名 >」のプロンプト表示) *変数「promptMode」により接続直後のモードが決まります。
EXIT	回線切断 最初の文字がE, e, Q, qの場合はEXITと認識します。

※「XPOS」「VER」「PASS」などいくつかのコマンドはログイン時のみ有効です。

■ 仕様一覧表

通信仕様	LAN 通信仕様	ARP、TCP/IP、UDP/IP、ICMP、POP3、IMAP BOOTP、DHCP、TELNET、SMTP、APOP、 NTP、HTTP、SNMP、NTTTP	
	LAN 制御方法	SNMP マネージャー、TELNET Web E-mail	
機能	電源制御/管理	電源 ON	
		電源 OFF	
		電源リブート	
		電源状態取得	
		グループ制御	
	スケジュール機能	週間スケジュール機能(20 個)	
		NTP による時刻同期機能	
		スケジュール ON/OFF 機能	
状態監視	ICMP送信		
	通報機能:SNMPトラップ、UDP パケット		
	Mail 通知		
	温度監視(要オプション)		
WOL 対応機能	あり:マジックパケット送信		
シャットダウン機能	スクリプト通信(TELNET)		
ハード仕様	インターフェース	10Base-T/100Base-TX 1 (RJ45) (IEEE802.3 に準拠)	
		COM (D-sub9 ピンオス)	
		温度センサ (RJ11) 、(要オプション)	
	定格	最大制御出力	AC100V 15A (1500W)
		最大消費電力	5.2 W
		入力電源電圧	AC100V ±10% (50/60Hz)
	使用環境	温度	0~40℃
		湿度	20~85%(ただし結露なきこと)
外形寸法	220(W) x45(H) x170(D) mm		
重量	約 1.6kg		
規格	特定電気用品認証品(電気用品安全法)、RoHS 指令準拠		

問い合わせ先

明京電機株式会社

〒114-0012 東京都北区田端新町 1-1-14
東京フェライトビル 4F
TEL 03-3810-5580 FAX 03-3810-5546

ホームページアドレス
<http://www.meikyoelectric.co.jp/>

ご注意

- (1) 本書および製品の内容の一部または全部を無断で複製することは禁じます。
- (2) 本書および製品の内容については、将来予告なしに変更することがあります。
- (3) 本書および製品の内容については、万全を期して作成いたしましたが、万一ご不審な点や誤り、記載漏れなどお気づきの点がありましたら、ご連絡ください。
- (4) 本製品を運用した結果の影響については、(3) 項にかかわらず責任を負いかねますのでご了承ください。
- (5) 本製品がお客様により不当に使用されたり、本書の内容に従わずに取り扱われたり、または弊社および弊社指定のもの以外の第三者により修理・変更されたこと等に起因して生じた障害などにつきましては、責任を負いかねますのでご了承ください。
- (6) 弊社指定以外のオプションを装着してトラブルが発生した場合には、責任を負いかねますのでご了承ください。

WATCH BOOT light RPC-M5CS

取扱説明書 2017年 2月 第1.0版

著作権所有 明京電機株式会社

- ※「リプーター」は明京電機の商標です。登録番号 5590686 号 (平成 25 年 6 月 14 日登録)
- ※「Watch Boot」は明京電機の商標です。登録番号 5000750 号 (平成 18 年 11 月 2 日登録)